

障害のある人へのコミュニケーション支援事例集

# COMIT支援ハンドブック

～つなぐ、つながるために～



COMITは、COMMUNICATION（コミュニケーション）とITの2つのことばをつなげてつくりました。  
障害のある人たちのコミュニケーションとIT（情報・通信）の両方を支援するという意味が込められています。

作成・編集

北九州市障害者社会参加推進センター

北九州市障害児・者へのコミュニケーション支援、IT支援を考える会（北九州市COMITの会）

障害のある人へのコミュニケーション支援事例集

# COMIT支援ハンドブック

～つなく、つながるために～

---

## 目 次

---

はじめに	1
あいさつ	2
<b>「障害別支援」</b>	
視覚障害	
視覚障害生活訓練等指導者（通称：歩行訓練士）について	5
視覚障害生活訓練等指導者 安河内 尊士	
福岡県立北九州視覚特別支援学校（北九州盲学校）の取り組みについて	10
北九州視覚特別支援学校 待木 浩一	
重度視覚障害者のパソコン検定受験支援について	12
特定非営利活動法人北九州市視覚障害者自立推進協会あいず 須藤 輝勝	
聴覚障害	
聴覚障害者を対象としたパソコン講座実施を通して	17
コミュニケーション支援等に関する事業	21
北九州市障害者社会参加推進センター 松本 大史	
盲ろう	
盲ろう者のコミュニケーションについて	23
財団法人北九州市身体障害者福祉協会 事務局長 藤岡 保	
盲ろう者（ろうベース）へのコミュニケーション支援について	26
北九州市障害者地域生活支援センター コーディネーター 石丸 美穂	
失語症	
失語症の紹介とコミュニケーション支援	31
北九州市立障害福祉センター 言語聴覚士 志賀 美代子	
肢体不自由	
コミュニケーション支援のための援助の考え方と具体的事例	37
機器操作のための援助を中心に	
北九州市立総合療育センター 理学療法士 阿部 光司	
肢体不自由の障害がある方へのITを活用したコミュニケーション支援を通して	40
北九州市障害者地域生活支援センター 立目 章	
難病	
福岡県重症神経難病ネットワークにおけるコミュニケーション支援について	45
福岡県重症神経難病ネットワーク 難病医療専門員 上三垣 かずえ	
A L S患者への長期サポート事例	48
パソボラネット北九州 村上 郁夫	

---

## 発達障害

発達障害者のコミュニケーション支援について . . . . . 5 3

北九州市立小倉北特別支援学校 赤瀬 理恵

歯科治療における自閉症患者さんへの視覚支援を用いた事例 . . . . . 5 8

福岡歯科大学成長発達歯学講座 障害者歯科学分野 加藤 喜久

## 精神障害

「浅野社会復帰センター」におけるIT支援について . . . . . 6 3

北九州市立浅野社会復帰センター センター長 元重 義則

## 「コミュニケーション支援、IT支援を行っている機関、団体」

### 障害者福祉会館

北九州市立障害者福祉会館におけるIT支援について . . . . . 6 7

財団法人北九州市身体障害者福祉協会 事務局長 藤岡 保

### 北九州市立障害福祉センター

重度障害者意思伝達装置（他の支援機器も含む）の導入支援 . . . . . 6 8

北九州市立障害福祉センター 久保 かおり

### 福祉用具プラザ北九州

福祉用具プラザ北九州におけるコミュニケーション・IT支援について . . . . . 7 2

福祉用具プラザ北九州 作業療法士 櫻木 美穂子

### 社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会

北九州市障害者パソコンサポーター養成・派遣事業 . . . . . 7 4

社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会

### 九州工業大学 大学院生命体工学研究科 和田研究室

障害者へのコミュニケーション支援・IT支援を行っている社会資源 . . . . . 7 6

九州工業大学 大学院生命体工学研究科 和田研究室 和田 親宗

e e - c l u b（北九州にAACとATを広める会） . . . . . 7 8

e e - c l u b（北九州にAACとATを広める会）の活動について

北九州市立八幡西特別支援学校 本田 誠三

特定非営利活動法人 北九州市視覚障害者自立推進協会あいず . . . . . 8 0

特定非営利活動法人 ふくおか視覚障害者雇用開発推進センター . . . . . 8 1

## 「資料」

障害のある人へのコミュニケーション支援に関するアンケート調査について . . . . . 8 3

北九州市障害児・者へのコミュニケーション支援、IT支援を考える会チラシ . . . . . 8 7

## はじめに

この「COMIT 支援ハンドブック」は、平成21年6月に立ち上げたばかりの「北九州市障害児・者へのコミュニケーション支援、IT支援を考える会(北九州市コミットの会)」の会員で作成しました。北九州市コミットの会とは、障害のある方々に対して障害特性に応じたコミュニケーション支援、IT支援を行うために必要なネットワーク作りを主な目的に作られた団体です。「障害特性に応じた支援」と良く耳にする言葉ではありますが、「障害特性に応じたコミュニケーション支援」となるといかがでしょうか。

昨年秋に開催されました西日本国際福祉機器展の来場者(福祉関係者、医療関係者等)にコミュニケーション支援についてのアンケート調査を行いました。

大半の方が、「障害のある方のコミュニケーション支援に関心がある」「障害のある方と接した中でコミュニケーションに困ったことがある」と答えています。一方で、職場などで障害のある方へのコミュニケーション支援に関する研修などを行っているのは職種にもよりますが、全体の3割程度の回答でした。(P83参考)

市内には、コミュニケーション支援を行っている機関、団体があります。しかし、必要としている支援者へ情報や支援技術が届いていないことやコミュニケーション支援は特別な知識や技術が必要で難しいことと捉えられているのではないのでしょうか。

そこで、北九州市コミットの会会員の持っている支援技術、情報を持ち寄り、「COMIT 支援ハンドブック」を作成することで、必要としている支援者をつなぐ、つながるための一助になればと考えました。

内容をご覧になって頂ければ分かりますが、対象としている障害や内容的にも不足しているところがあります。

今後のこのような取り組みに賛同される方のご協力も募りながら、「COMIT 支援ハンドブック」第2版、第3版と積み重ねていき、内容が充実していければと思っておりますので、ハンドブックを読みながら「北九州市障害児・者へのコミュニケーション支援、IT支援を考える会(北九州市コミットの会)」への入会もご検討頂ければ幸いです。

最後になりましたが、当会の趣旨に賛同して頂き、冊子の作成にご協力いただきました、北九州市障害者社会参加推進センターに感謝申し上げます。

平成22年3月

北九州市障害児・者へのコミュニケーション支援、IT支援を考える会  
(北九州市コミットの会)事務局

## コミュニケーション支援ハンドブック作成にあたって

北九州市障害者社会参加推進センター  
センター長 藤岡 保

北九州市障害者社会参加推進センターでは、このたび、北九州市障害児・者へのコミュニケーション支援、IT支援を考える会（北九州市COMITの会：北九州市内で障害のある方々に対して障害特性に応じたコミュニケーション支援、IT支援を行うために必要なネットワーク作りを主な目的に結成された団体）と共同で、北九州市における障害のある方々へのコミュニケーション支援ハンドブックを作成することになりました。

今回のハンドブック作成にあたっては、障害のある方々への支援をされている皆さんに「コミュニケーション支援とは何か」を知っていただくことを目的として、関係者および支援者が実際に関わった具体的な事例や、IT支援を含めた社会資源の紹介を中心に作成いたしました。

障害のある方々が地域で生活していくためには、様々な支援機関や支援団体、そして福祉サービス事業者との連携が必要不可欠です。このハンドブックをきっかけに、コミュニケーション支援や障害特性に関する知識や技術を共有化することで、障害のある方々の地域での生活がより充実し、生きがいを感じてもらえる支援体制ができることを願っております。

また、当センターは、平成3年の設置依頼、財団法人 北九州市身体障害者福祉協会が委託を受けセンター運営を行ってまいりました。運営団体および社会参加推進センターの目的は、障害の有無にかかわらず、誰もが家庭や地域で明るく生きがいをもって暮らせる社会の実現です。その一環として障害者自らによる各種の社会参加推進事業を実施し、障害のある方々の自立と社会参加の推進を行っています。その中でも、コミュニケーション支援は欠かせない支援のひとつです。今回のハンドブックは、内容的にもまだまだ一部の支援者の協力によるもので、ひとつのきっかけに過ぎません。今後、このハンドブックをきっかけとして、市内で障害福祉に関わる関係機関・団体および個人の皆さんとのネットワークが構築できれば幸いです。

最後に、今回のハンドブック作成にあたりご協力を頂きました北九州市障害児・者へのコミュニケーション支援、IT支援を考える会の皆さん、そして事例を提供して頂きました方々にこの場をおかりして御礼申し上げます。

障害別支援

# 「視覚障害」

## 視覚障害生活訓練等指導者（通称：歩行訓練士）について

視覚障害生活訓練等指導者 安河内 尊士

### はじめに

“リハビリテーション”の意味は「身体に障害のある人などが、再び社会生活に復帰するための、総合的な治療的訓練（辞書：大辞泉）」とあります。特に“治療的”とくれば、自ずと“病院”をイメージされることでしょう。最もそれが一般的なとらえ方なのですが、この意味には続きがあるのです。「身体的な機能回復訓練のみにとどまらず、精神的、職業的な復帰訓練も含まれる（辞書：大辞泉）」・・・となると、“リハビリテーション＝病院”にとどまらない語句の使用が導き出されます。

この治療的訓練以外での“精神的、職業的な社会復帰”ですが、とりわけ視覚障害者に至っては、屋内外の移動や読み書き、日常生活、身辺処理など、保有視力によっては個人差が生じるものの、これまで通りにはいかなることが大半ではないでしょうか。

たとえば、“スーパーで買い物をしたい”という欲求があるとします。・・・自室から玄関まで移動し、身なりを整え、玄関を出る。目的地であるスーパーに到着し、必要な物品を手に入れ、レジで精算。来た道を戻り、自宅に帰り着く・・・。

視覚に見えづらさを抱えた時、上記の欲求の中にどれだけの困難が潜んでいるでしょう。

身なりも身辺管理や着替えもありますね。靴下の左右色が違うなんてこともあるかも知れません。スーパーまでどのように移動しましょうか？スーパーのどこに必要な物品があるのでしょうか？精算時、お金は誰が払いますか？...等等。

恐らく大半の人が、これまで特に意識せずに出ていたことですら、その実現に対し、場合によっては新たなスキルや方法が必要となることでしょう。そして見え方に個人差があれば、当然、実現するための過程、方法、加減など、新たに獲得する生活技術にも個人差が生じます。誰かを真似て、或いは参考書を見るなどでは到底なしえないこともたくさんあることでしょう。

これら様々な個人差やその技術を必要とする視覚障害者とともに、その方が培ってこられた経験を生かしつつ、新たな技術の導入を模索するなどの“精神的、職業的な社会復帰”を実現するトレーニングプログラムのことを“視覚障害リハビリテーション（生活訓練）”といいます。そして、その視覚障害リハビリテーションの専門指導者のことを“視覚障害生活訓練等指導者（通称：歩行訓練士）”といいます。



## 通称 歩行訓練士

これまで視覚障害リハビリテーションを実施している機関や施設などによっては、“盲人指導員”や“歩行訓練士”など指し示す名称が不確定でした。

これにはいくつか理由があり、たとえば、移動に限らず日常生活やコミュニケーションなど実地指導範囲が多岐に渡る。また、厚生労働省認定資格であり、国家資格でないことから、存在自体が一般的でないこと等が挙げられます。

そこで名称化されたのが“視覚障害生活訓練等指導者”なのです。書いて字のごとく、視覚障害を有する人に対し、歩行のみならず生活全般を訓練指導する者を指します。

この指導者の養成については、歩行訓練士の養成として1970（昭和45）年から開始され、現在は厚生労働省委託事業である指導者養成（日本ライトハウス実施）国立身体障害者リハビリテーションセンター学院（共に2年課程）で実施されています。従って、国内における視覚障害リハビリテーション（生活訓練）は、主にこの2機関を修了した専門の指導者によって行なわれているのが現状です。

さて、この“視覚障害生活訓練等指導者”の職域/生活訓練ですが、大きく3つあります。

1) 歩行（移動）、2) コミュニケーション（点字・音声パソコン）、3) 日常生活（家事技能、身辺管理、他）です。

### 1) 歩行（移動）

#### 白杖歩行

視覚障害者の補装具のひとつ“白杖”を使用した障害者単独の歩行技術をさします。交差点横断、階段昇降、空間歩行など、交通機関の利用も含めた歩行技術の修得を目指すものです。

#### ガイド（手引き、介添え）歩行

ガイドする側（手引き者）、される側（障害者）との協力があって成り立つ移動技術です。このガイドヘルパー（ボランティア）の養成も職域の範疇となります。

### 2) コミュニケーション

#### 点字

用紙の凹凸が表裏一体となった視覚障害児・者の読書き技術指導をさします。凹面が書き、凸面が読みとなります。最近では駅や階段で見かけることが多くなりました。

#### 音声パソコン

画面音声読み上げソフトがインストールされたパソコンを使用します。メール、インターネット、ワード、エクセル等各ソフトの使用方法を修得し、社会（家庭）復帰を目指すものです。

### 3) 日常生活

#### 家事技能

調理、掃除、洗濯など家事一般をさします。主婦のみならず、独身者、妻帯者の方も受講希望が見られます。

#### 身辺管理

整髪、洗髪、歯磨き、爪切り、食事、喫煙、金銭管理などがあげられます。

このほか、視覚障害リハビリテーションを実施している機関・施設によっては、レクリエーションやスポーツもあります。また社会や家庭復帰に向けての他機関（地域）との連携、障害者自身だけでなく家族（周囲）へのケアなど、個々のニーズや目標に沿ったケースワークなど職域に含まれてきます。

#### 「視覚障害」 「全く何も見えない状態」

一般的には、“まったく見えない全盲”と“少し見える弱視（＝ロービジョン）”の二つを“視覚障害”と言います。割合としては全盲が“1”としたならば、弱視は“99”とも言われます。

つまり、視覚障害という言葉から、“全く何も見えない状態”をイメージする方が少なくないと思いますが、実際には弱視（＝ロービジョン）といわれる“全く何も見えない状態”以外の“様々な見え方”の状態の方が多く、この“様々な見え方”は個人によって異なるため、それらの多くは周囲に理解されにくいのが特徴と言えます。結果的には、この“見え方の違い”によって、日常生活上の“不自由な場面”も異なってくるのです。

具体的に、“全体がぼやけて見える”、“まぶしさを強く感じる”、“視野の中心部が見えない”、“視野の中心部だけが見える”等々があります。以下に“見え方の違い（極端な例）”を記載しています。一例として参考にされてください。

#### 全体がぼやけて見える

天候差関係なく、視野全体に常にぼやけが生じている状態です。



眩しさを強く感じる

“眩しさ = 羞明”とも言います。全体が白けて物のはっきりしない見え方を指します。



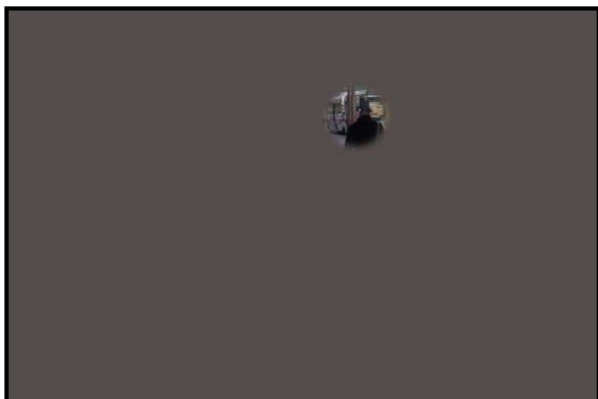
視野の中心が見えない

上を向いても、下を向いても視野の中心付近が見えない状態を指します。



視野の中心部だけが見える

求心性視野狭窄とも言い、“筒の中”というように表現する方もいます。



## おわりに

今回は、“視覚障害リハビリテーション（生活訓練）”を通して、“視覚障害生活訓練等指導者”の説明と職域、“視覚障害という見え方”などを記させて頂きました。

私たち“視覚障害生活訓練等指導者”は、生活訓練を実地指導するうえで最も大切にしていることがあります。それは“安全の確保”です。さまざまな困難を一つ一つ乗り越えるために個々の目の状態（その方の見え方）、目標、これまでの社会経験などをもとに方法、加減、過程を対象の方と十分に話し合い、各訓練を展開していきます。しかし、どんなに必要で、どんなに重要であっても、“安全”なしでは、何の習得も厳しいでしょう。“安全”が“安心”となり、次第に信頼関係を築いていく。その上で“視覚障害リハビリテーション”は成り立つのです。そして、絶えず対象者を安全のもとで“支え・寄添い・導く”...それが私たち“視覚障害生活訓練等指導者”の姿なのです。

以上

## 引用・参考文献

芝田裕一 2007 視覚障害児・者の理解と支援 北大路書房

## 福岡県立北九州視覚特別支援学校（北九州盲学校）の取り組みについて

福岡県立北九州視覚特別支援学校（北九州盲学校）

待木 浩一

〒805-0016 北九州市八幡東区高見5丁目1-12

電話：093-651-5419 FAX：093-651-9095

### コミュニケーション支援・IT支援内容

#### 教育相談について

本校では、地域に在住する本校在籍外の、主として視覚に障害を有する、幼児・児童・生徒・成人やその保護者及び関係諸機関に対して、視覚障害教育に係わる専門的な指導、相談、援助、情報提供等の教育相談を行っています。

乳幼児相談（就学前）・学齢児相談（小・中学生、高校生）

相談内容：対象児童・生徒の発達や学習等に関わる内容について

（全身運動・手指・感覚・探索・歩行・移動・視知覚・弱視レンズ・日常生活技能等の支援）

成人相談

相談内容：日常生活に関わる内容について

（音声パソコン・携帯電話・点字・調理等の支援）

#### IT支援

主に成人相談で、見えない、見えにくい方でもワープロ入力やメール、インターネット等ができる各種ITツールの基礎的な操作等について支援を行っています。

##### パソコンの使い方

タッチタイピング、スクリーンリーダー（画面上の情報を音声で読み上げる）の使用、見え方に配慮したカスタマイズ（画面を黒地に白文字にする、文字を拡大する、画面の一部を拡大する、マウスポインタを大きくする等）の方法。

##### 携帯電話の使い方

音声出力のあるらくらくフォンの各種設定、メールのやりとりやフォルダ整理等。

拡大読書器や点字ディスプレイ、デジタル図書再生機の操作等。

#### その他

ホームページ：<http://kitamou.fku.ed.jp/>

メールアドレス：[info@kitamou.fku.ed.jp](mailto:info@kitamou.fku.ed.jp)

相談は電話・メールにてお受けしております

相談時間：火～金 午前の部 10:00～11:30 午後の部 14:00～15:30



### 点字ディスプレイ

（写真は「<sup>ブレイル メモ</sup>Braille Memo」：ケージーエス株式会社）

携帯して点字のメモ帳として、事前にテキストデータ等を入れて持ち歩き、点字ディスプレイで表示させることができます。PC につないで、パソコンの画面をピンディスプレイで表示することができます。



### 点字プリンター

（写真は「ESA721」：株式会社ジェイ・ティー・アール）

パソコン等の点字ワープロソフトで作成されたデータを点字で印刷するプリンター。「ダダダダ」という軽快な音に合わせて点字が印刷されていきます。

点字だけでなく点図も出力できます。



### 拡大読書器

（写真は「<sup>アシスト ビジョン ネオ</sup>Assist Vision Neo」：株式会社タイムズコーポレーション）

台の上に乗せた印刷物を画面に大きく映し出す機器。

ズームやコントラストや白黒反転（背景を黒、文字を白）等の調整もできます。

据え置きタイプの他に携帯用もあります。

## 重度視覚障害者のパソコン検定受験支援について

特定非営利活動法人

北九州市視覚障害者自立推進協会あいず

須藤 輝勝

北九州市視覚障害者自立推進協会あいず（以下、あいずと略称）では、朝日新聞厚生文化事業団の助成を得て、重度視覚障害者を対象とした「日商PC検定（文書作成）3級」受験のための講座を実施しました。

### 背景とねらいについて

1. パソコンを使える視覚障害者は多いにもかかわらず、そのスキルを証明する検定試験を重度視覚障害者は受験することはできませんでした。2006年12月に日本職能開発センターが「日商PC検定（文書作成）3級」をスクリーンリーダーで受験できるシステムを開発し、これが現在でも重度視覚障害者が点訳者や音訳者の力を借りず自力でパソコンを使って受験できる唯一のパソコン検定試験です。
2. しかし、この検定試験を重度視覚障害者が受験しようとした時に、視覚障害者に対応したテキストや講座は全くありません。市販されている対策テキストや問題集は、見える人が対象なので、そのままでは使えません。たとえ点訳や音訳をしたとしても、画面が見えてマウスが使える晴眼者を対象に書かれているので、スクリーンリーダーとキーボードを使ってパソコンを操作する重度視覚障害者には殆ど役に立ちません。一般のパソコン教室の対策講座も同じ理由で受講できません。
3. そこで、視覚障害者に対応した受験対策のためのテキストや問題集、そして対策講座が必要になります。このような教材を揃え、対策講座を実施することで、「日商PC検定（文書作成）3級」にひとりでも多くの合格者を出し、視覚障害者の就労支援の一助としたいということでの事業を実施しました。

### 事業の概要

実施者：特定非営利活動法人北九州市視覚障害者自立推進協会あいず

協力：ふくおか視覚障害者雇用開発推進センター、北九州市障害者社会参加推進センター

実施体制：

下記の実行委員会及び問題作成部会を組織して事業を運営、実施しました。

実行委員会（委員長：野村秀紀）

野村 秀紀 特定非営利活動法人北九州市視覚障害者自立推進協会あいず 理事長

氏間 和仁 福岡教育大学教育学部 准教授

和田 親宗 九州工業大学大学院生命体工学科 准教授

赤松 賢一 ふくおか視覚障害者雇用開発推進センター 理事長

松本 大史 北九州市障害者社会参加推進センター

吉松 政春 北九州盲学校 校長

田中 清 (有)化成フロンティアサービス 取締役

高 清秀 特定非営利活動法人北九州市視覚障害者自立推進協会あいず 事務局長

須藤 輝勝 視覚障害者小規模共同作業所あいず 所長

問題作成部会（部長：高清秀実行委員）

伊藤 薫 特定非営利活動法人北九州市視覚障害者自立推進協会あいず 理事  
大宅 宏志 特定非営利活動法人北九州市視覚障害者自立推進協会あいず IT部会長  
水上 嘉美 視覚障害者小規模共同作業所あいず 副所長  
安木 順子 視覚障害者小規模共同作業所あいず 指導員  
中村 忠能 (有)化成フロンティアサービス OAセンター  
松永 みちる 北九州市パソコンサポーター派遣事業 登録サポーター

事業期間：平成21年7月～12月

事業内容

1. 受験準備のためのテキスト等資料作成

- ・「知識科目」対策問題集270問 \*解答、一部解説付き
- ・「実技科目」のためのスキルチェック表、解法手順書
- ・ビジネス文書のフォーム（レイアウト）を理解してもらうための点図表
- ・グラフや表のイメージを理解してもらうための点図表
- ・ビジネス文書の書き方についての音訳版作成



文書レイアウト説明のための点字資料  
(日商PC検定3級講座で使用)

2. 対策講座

- ・総時間数26時間（全7日）
- ・PCを使つての実技練習や模擬テスト
- ・講座実施日：9月6日、13日、27日、10月3日、11日、17日、24日
- ・会場：ウェルとばた6C、作業所あいず

3. メーリングリストでの情報提供、情報交換など

- ・スタッフ用ML：委員会と問題作成部会のメンバーで構成。講座の指導内容や資料などについての討議をしました。
- ・受講者ML：受講者とスタッフで構成。質疑応答、課題提供、各種連絡に利用。
- ・受験に関する質疑応答だけでなく、受講者のモチベーションアップにも大変有効でした。

4. 個別指導（メールでの添削指導も含む直接・間接指導）

- ・MLで実技問題などの課題を与え、スタッフがメールで添削指導しました。
- ・希望者には作業所あいずでマンツーマンの指導をしました。

5. 試験環境検証のための模擬試験への立ち会い

8月26日、11月16日

6. 検定試験の実施

9月19日、10月25日、11月21日、11月27日

成果のまとめ

今回の事業で得られた成果をまとめると次の通りです。

1. 受験者（重度視覚障害者7名）のうち6名の合格者を出すことができました。  
(内1名は再受験合格)
2. この事業により、視覚障害者への受験支援のためのノウハウが蓄積され、それを講師・サポーター・受験者で共有することができました。また、蓄積されたノウハウは、知識科目問題集、実技試験スキルチェック&解法手順書などとして形になりました。
3. これにより、重度視覚障害者に対する「日商PC検定」の受験をサポートできる人材と資料が揃ったため、これからも継続的に支援ができる基盤ができました。



## 課題と今後

今回の事業を実施しての課題と今後の計画は次の通りです。

1. 今回の事業で合格した人は、日常的にメールなどをしてパソコンを使っている人でした。まだパソコンに習熟していない視覚障害者のスキルアップも必要です。
2. 合格状況から見て、対策のための教材、資料、講座の内容は、ほぼ正鵠を得ていたと考えられます。今後は、これをベースに更に充実した内容のものにグレードアップしていきたいです。
3. 今回の事業で得たノウハウと人的資源を活用して地元で更に合格者を増やし、視覚障害者の一般就労の裾野を広げていきたいです。
4. また、現在のところ重度視覚障害者が受験できる検定試験が「日商 PC 検定(文書作成)3級」だけなので、試験の種類や級数を増やすよう関係機関・団体等に働きかけていきたいです。

## <その他>

PC-Talker や Windows、Word のバージョンにより読み上げができたりできなかつたりします。今回は、試験会場のマシン環境(PC-Talker 2.1、Windows XP、Word 2003 の組み合わせ)で最もよいと思われる操作方法で問題を解いてもらいました。特に、網掛けや罫線の線種変更などの操作がメニューバーからの操作では読み上げないところが多く、ツールバーから操作する方法を取りました。

また、6点入力での受験者にマシントラブルが発生しました。原因が6点入力にあったのかどうかは特定できませんでした。

特定非営利活動法人北九州市視覚障害者自立推進協会あいず  
〒804-0084 北九州市戸畑区幸町6-7  
電話/FAX: 093-871-7711  
URL: <http://www.aizu-k.com>  
E-Mail: [info@aizu-k.com](mailto:info@aizu-k.com)

障害別支援

# 「聴覚障害」

# 聴覚障害者を対象としたパソコン講座実施を通して

北九州市障害者社会参加推進センター  
松本 大史

## 1. はじめに 取り組みの経緯について

社会参加推進センターでは、重度障害者支援の事業の1つとして、平成21年8月に聴覚障害者を対象としたパソコン講座を実施しました。

一般的なパソコン講座では、講師が操作説明をする際、受講者は自分のパソコンの画面を見て、直接講師の説明を聞きながらパソコン操作をすることができます。

聴覚障害者が受講する場合には、手話通訳や要約筆記などの情報を保障する手段（以下情報保障）が必要となり、それぞれ講師の声を手話や文字に置き換えて伝える時間が生じます。また、講師が説明をしている間は、手話通訳者や要約筆記のスクリーンを見ることになるため、説明と同時にパソコン画面を見たり、操作を行ったりすることができません。

そのため、上記のような情報保障を必要としない人と同じ講座を受講した場合、情報伝達の時間や情報量に若干の差が生じてしまいます。

そこで、今回の講座では、情報保障を含めたコミュニケーションを重視した講座を実施しました。聴覚障害者の情報保障と合わせて、これらの取り組みについて述べたいと思います。

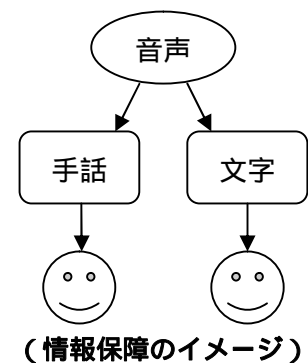
## 2. 聴覚障害者のコミュニケーション手段と情報保障について

聴覚障害者のコミュニケーション手段は、手話や筆談、指文字（日本語の50音を指で表したもの。手話で話す時に補助的に用います。）空書、口話・読話、身振りなどがあげられます。

身体障害者手帳では、耳の聞こえの程度（デシベル）で等級に分類されていますが、その分類とコミュニケーション手段が必ずしも一致するわけではありません。

今回は、講座で必要とした情報保障という観点から話を進めたいと思います。

ただし、聴力の程度、失聴した時期、教育を受けた環境などでその人のコミュニケーション手段は異なってきます（手話と文字を併用して使う人、音声で会話ができる人など）ので、必ずしも下記の分類どおりではないことを前置きしておきます。



### (1) 手話をコミュニケーション手段とする人

- ・言語<sup>(注)</sup>獲得期前、例えば言葉を話したり読み書きできるようになる前に失聴した人

(注)・・・ここでいう言語とは日本語のことをいいます。

言語獲得期・・・その時期を過ぎると母語の獲得が不完全になるような年齢のこと。

- ・ろう学校に通うなどして手話を獲得した人 など

聴力のレベルは重度の人が多数です。

(情報保障)

手話通訳

話し手の音声を、通訳者が手話に変換して対象となる聴覚障害者に通訳して伝えることです。

音声日本語と手話という2つの言語を同時に頭の中で変換する作業が必要になるので、通訳者に負担が大きく、内容によっては2～3人体制で15分から20分で交代するなど、ローテーションを組んで対応します。



(手話通訳)

(2) 文字(筆談など)をコミュニケーション手段とする人

- ・言語獲得後、例えば言葉を話したり読み書きできるようになってから失聴した人
- ・老化に伴う聴力の減退から失聴した人 など

聴力のレベルは軽度から重度までさまざまです。音声で会話をすることができる人も多いです。

(情報保障)

要約筆記

話し手の音声を、筆記者が内容を要約して筆記し、対象となる聴覚障害者へ伝えることです。

イベントの内容や対象者の人数によって以下の2つの方法に分かれます。

ノートテイク・・・個人を対象にして、話し手の音声を対象者の隣で筆記して伝えることです。



(ノートテイク)

OHC・・・参加者が多い講演会などの大きなイベントの際に、複数の対象者に対して話し手の音声をスクリーンに映し出して伝えること。最近ではパソコンを用いたパソコン要約筆記も主流になっています。  
複数人でチームを組んで対応します。



(OHC)

(3) その他のコミュニケーション手段を必要とする人

- ・重複障害、ホームサイナー など

(盲ろう者については、「盲ろう者のコミュニケーションについて」を参照。)

### 3. 講座での取り組みについて

- (1) 対象者 7名(手話通訳を必要とする人1名、要約筆記を必要とする人6名)
- (2) 会場 東部障害者福祉会館 研修室6C
- (3) 情報保障 手話通訳者 1名、  
要約筆記者(今回は4人一組でOHCを使用)  
補助講師 1名(パソコンサポーターより)
- (4) 内容 エクセル中級(エクセルの基礎操作、関数を使った表の作成など)
- (5) 回数 1回3時間の全5回。

#### (6) 進行方法

聴覚障害者のパソコン講座において、まずしなければいけないことは、参加している受講生の情報保障です。

前述しましたが、講師が話をしている時は手話通訳者、要約筆記(スクリーン)の方に視線がいき、パソコンを操作する時は画面の方に視線がいきます。

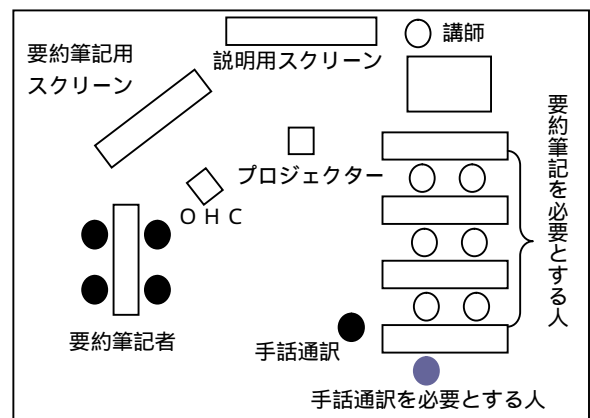
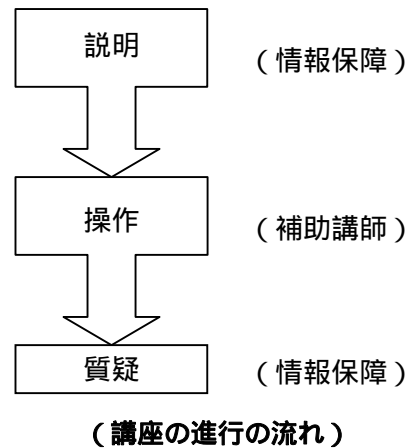
聴覚障害という障害特性上、情報保障を必要としない人とは違って、講師の話を聞きながらキーボード、マウス操作を同時に行なっていくことはできません。

そこで、講座の中では、説明をする場面と実際にパソコンを触って操作をしてもらう場面を明確に分け、講座を進行する方法をとりました。

(講座の中では、説明用スクリーンに「説明」と書かれたスライドが表示された時はスクリーンを見る、「操作」のスライドが表示された時には自分のパソコンを操作するというルールを事前に決めていきます。)

説明の場面では、これから行う作業内容や手順を、パワーポイントを使ってスクリーンで映しながら講師が説明を行ないました。

操作の場面では実際にパソコンを触って操作をしてもらい、質問等がある場合は個別で対応し、全体で共有すべきものについては、説明の場面で全体で共有するようにし、できるだけ作業内容や用語について確認をしていながら講座を進めていきました。



(講座会場のレイアウト)

#### 4. 今後講座を実施していくにあたっての課題について

今回のような講座を今後継続して、より質を高めていくためには以下のような課題があげられると思います。

##### (1) 講師の育成、確保

今回は受講生の障害特性に理解のある講師に担当していただき、進行方法や資料等に配慮をしていただきました。

今後このような講座を増やしていくためには、聴覚障害という特性を知らない講師の方たちに、聴覚障害の特性を知ってもらう機会を増やし、講座の組み立てを共に考えていく環境を作る必要があると考えられます。

また、最初は受講生だった聴覚に障害のある当事者が支援者となり、直接コミュニケーションをとりながら、先輩として、また講師として講座を進行できるような環境をつくることも大切だと思います。

##### (2) 情報保障者の養成と確保

情報保障を必要とする人に対し、情報保障を担う人材がまだまだ少ない現状では、適切な情報保障が行なえる人材を養成し、確保していくことが必要と考えられます。

##### (3) 時間的に余裕を持ったカリキュラムの設定

聴覚障害者が参加する講座においては、講師の説明などの情報が受講生に伝わる時間や理解度を確認する時間を含めた、時間的に余裕のあるカリキュラム、スケジュール作りが大切になります。

そのためには、会場の長期間の確保や予算などの財源確保といった問題をどうクリアするかが課題だと思われます。

##### (4) 情報保障手段別の講座の開催

受講生のパソコンスキルが上がってくるにつれて、講師からの説明もかなり専門的になってくるので、説明から理解しているかどうかの確認まで、情報保障手段を介しての伝達にはかなり時間を要することになります。場合によっては、情報保障の環境を統一し、手話通訳が必要な人だけの講座、要約筆記が必要な人だけの講座といった、情報保障手段別の講座に分けて開催する必要もあると思います。

#### 5. 手話通訳者派遣事業、要約筆記奉仕員派遣事業について

今回この講座で情報保障として利用した、手話通訳者や要約筆記奉仕員派遣事業、またその他のコミュニケーション支援に関することは、次ページの「コミュニケーション支援等に関する事業」を参照してください。

## コミュニケーション支援等に関する事業

### 1. 東部障害者福祉会館 視聴覚障害者情報センター

〒804-0067 戸畑区汐井町 1-6 ウェルとばた 6階

TEL 883-5552 FAX 883-5553

#### (1) 養成事業

##### ○要約筆記奉仕員養成講座

手話を習得することが困難な難聴者・中途失聴者のコミュニケーション手段としての要約筆記の技術を習得し、支援することを目的としています。

手書きコースとパソコンコースがあります。(パソコンコースは、手書きコースの修了が必須)

##### ○盲ろう者通訳ガイドヘルパー養成講座

視覚と聴覚の両方に障害のある盲ろう者に対し、社会生活上必要な外出の際の移動やコミュニケーション支援にかかる知識・技術を習得することで、社会参加を推進することを目的としています。

#### (2) 派遣事業

##### ○手話通訳者派遣事業

手話を主たるコミュニケーション手段とする聴覚障害者が、コミュニケーションに支障がある場合に、手話通訳者を派遣しています。

##### ○要約筆記奉仕員派遣事業

手話をコミュニケーション手段としない聴覚障害者が、社会生活を営む上でコミュニケーションに支障がある場合に、要約筆記奉仕員を派遣しています。

会議などでOHC及びパソコンを使用して要約筆記を行なうOHC等派遣と、聴覚障害者個人に対して要約筆記を行なう個人派遣とがあります。

##### ○盲ろう者通訳ガイドヘルパー派遣事業

盲ろう者が社会生活上必要な外出に際し、移動またはコミュニケーションに支障がある場合、盲ろう者通訳・ガイドヘルパーを派遣しています。

### 2. 北九州市立点字図書館

〒806-0066 八幡西区若葉 1-8-1 西部障害者福祉会館内

TEL 645-1210 FAX 645-1601

#### (1) 養成事業

##### ○点訳奉仕員養成講座

視覚障害者への情報提供手段の1つである点訳の知識・技術とともに、視覚障害者の現状を学ぶことで、視覚障害者へ理解ある人材を養成し、点訳活動の推進を図ることを目的としています。

##### ○朗読奉仕員養成講座

視覚障害者への情報提供手段の1つである音声訳の知識・技術とともに、視覚障害者の現状を学ぶことで、視覚障害者へ理解ある人材を養成し、音声訳活動の推進を図ることを目的としています。

#### (2) 支援事業

##### ○視覚障害者パソコン入門教室

パソコンを初めて利用する視覚障害者に対して、パソコンの基礎的な操作を学習してもらい、1人で情報の収集ができるような環境を実現することを目的としています。

障害別支援

「盲ろう」



# 盲ろう者のコミュニケーションについて

財団法人北九州市身体障害者福祉協会  
事務局長 藤岡 保

## はじめに

私たちは日常生活の中で、無意識に多くの情報を視覚と聴覚から得て生活をしています。これらの情報により、地域社会での生活や人との出会い・交流など、自らの生活を作り上げています。

視覚・聴覚に障害があると、これら生活に必要な情報を得ることが難しくなり、得られる情報にも差が出ることから、「情報障害」と言われることがあります。

今回は、この情報障害といわれる中でも、視覚・聴覚の両方に障害のある「盲ろう者」のコミュニケーションについて紹介します。

## 盲ろう者の定義

盲ろう者とは、前述のとおり、視覚・聴覚の両方に障害のある人のことを言い、盲ろうの障害の基準は、社会福祉法人全国盲ろう者協会によると、「聴覚と視覚の障害それぞれが単独で身体障害者手帳の交付を受けられる」と定めています。

「盲ろう」という障害名は法的に定義づけられているわけではなく、一般的に呼称されているもので、近年では行政文書の中などにも普通に使われるようになってきています。

「盲ろう」という表現が初めて使われたのは、1981年、筑波大学付属盲学校の盲ろうの生徒、福島智さんの大学進学を支援するために「福島智君とともにあゆむ会」が作られた時からです。

## 盲ろうの種類

一口に盲ろうの障害と言っても様々なタイプがあります。一般的には下記の4つに分類されます。

- ・全盲ろう：まったく見えなくて、まったく聞こえない。
- ・全盲難聴：まったく見えなくて、少し聞こえる。
- ・弱視ろう：少し見えて、まったく聞こえない。
- ・弱視難聴：少し見えて、すこし聞こえる。

また、全国盲ろう者協会では、視覚障害、聴覚障害ともに1級～2級の範囲の人を「重度盲ろう者」呼んでいます。しかし、この呼び方は現段階ではまだ法的に位置づけられたものではありません。

## 1. 「盲ベース」と「ろうベース」

盲ろう者のうち、視覚障害が先に発症して、聴覚障害があとに発症した人を「盲ベースの盲ろう者」、聴覚障害が先に発症して、視覚障害があとに発症した人を「ろうベースの盲ろう者」と呼ぶ場合があります。おおむね、点字がコミュニケーション手段の中心となる人のことを盲ベース、手話がコミュニケーション手段の中心となる人を「ろうベース」と呼ぶ場合もあります。(ただし、障害の程度や、教育を受けた環境により異なるため、必ずしもこのとおりではありません。)

## 2. コミュニケーション方法

盲ろう者のコミュニケーション方法は、前述のとおり、視覚及び聴覚の障害の程度や生育歴、他の障害との重複のしかたなどによって実に様々です。

手話（触手話、接近手話など） 指文字

ろうベースの盲ろう者が主に用いるコミュニケーション方法です。



触手話

相手の手話を触って、その形を読み取る方法を「触手話」、盲ろう者の見え方に合わせて、近づいて手話をする方法を「接近手話」といいます。また、「指文字」(50音やアルファベットを指の形で表したものを)触って、指の形で確認する方法もあります。

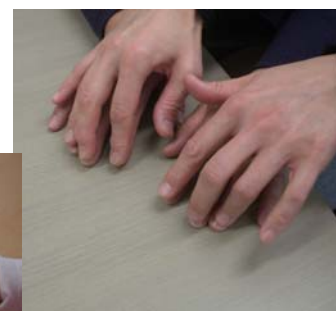
点字(指点字、プリスタなど)

盲ベースの盲ろう者が主に用いるコミュニケーション方法です。両手の人差し指・中指・薬指を使い、点字タイプライターで点字を打つように、盲ろう者の指の上で点字を打つ方法を「指点字」といいます。

点字板やプリスタ(ドイツ製の点字タイプライター)などを使って直接点字を書いたり読んだりする方法もあります。



プリスタ



指点字

文字(手のひら書き、筆記、パソコン)

視力がある程度残っている盲ろう者に使うコミュニケーション方法です。相手の手のひらに直接文字を書いたり(手書き文字)、紙に大きな文字を書いて、筆談の形でコミュニケーションをとったりします。特別な技術を身につけなくても誰でも出来る方法です。最近では、1対1ではなく、1対多数で利用できることから、パソコンに大きな文字を映し出す方法もよく使われています。

音声

聴力がある程度残っている盲ろう者に使うコミュニケーション方法です。聞きやすい大きさの声で話せば、コミュニケーションをとることができます。

## ・盲ろう者通訳・ガイドヘルパー派遣事業(盲ろう者通訳・ガイドヘルパー派遣事業実施要綱より)

### 1. 目的

この事業は、盲ろう者が社会生活において必要な外出に際して、コミュニケーションに支障がある場合に、通訳・ガイドヘルパーを派遣することにより、移動の自由を確保し、社会参加を推進することを目的としています。

### 2. 派遣対象者

身体障害者手帳1級及び2級の視覚および聴覚の両方に障害のある方(盲ろう者)が対象となります。

### 3. 派遣対象範囲

官公庁等の公的機関又は医療機関等に赴く場合。(ただし、医療機関については継続的な通院は除きます。)

社会参加の観点から、日常生活上、外出の必要なとき。ただし、次の場合を除きます。

- ・通勤、営業活動等の経済的活動
- ・通学、通院等の長期にわたる外出
- ・社会通念上本制度を適用することが適当でないもの

上記以外で、市内で開催される行事等で次に該当するものに対しても派遣します。

- ・公共団体及び公的機関が主催する会議、大会等
- ・障害者団体及び福祉関係団体が主催する会議、大会等
- ・その他、市長が必要と認める会議、大会等

#### 4. 派遣費用

通訳・ガイドヘルパーの派遣に係る利用者の費用負担は無料です。ただし、派遣の対象となった盲ろう者が、交通機関を利用して外出する場合、通訳・ガイドヘルパーにかかる交通費等の費用は原則として、盲ろう者が負担することとなります。

#### 5. 派遣時間

通訳・ガイドヘルパーの派遣時間は1人につき原則として1日4時間を限度とします。

#### 6. 事業の実施団体

北九州市の事業として、財団法人北九州市身体障害者福祉協会が実施しています。

#### 7. 通訳・ガイドヘルパー

通訳・ガイドヘルパーは、北九州市盲ろう者通訳・ガイドヘルパー養成講座を修了した人又はそれと同等の能力があると認められる人で、盲ろう者の福祉に理解と熱意を有する人としています。

#### ・盲ろう者支援に関連のある社会資源

##### (1) 北九州市立東部障害者福祉会館

市内に2箇所ある身体障害者福祉センターの一施設です。障害者の社会参加と自立、そして生きがいの創出を目的とした各種講座の開催や、障害者の当事者活動やボランティア団体の活動の場として貸館業務を行ないます。同館内では、視聴覚障害者情報センターにて手話通訳、要約筆記、盲ろう者通訳・ガイドヘルパーの派遣を行なっています。社会参加推進センターでは、就労につながるパソコン講座の開催等を開催しています。

〒804-0067

福岡県北九州市戸畑区汐井町1-6 ウェルとばた6F

電話：093-883-5550 FAX：093-883-5551

##### (2) 北九州盲ろう者支援サークルひまわり

盲ろう者の支援者で構成されています。活動は月曜日に戸畑区ウェルとばた6階の東部障害者福祉会館にて10:00~14:00まで活動しています。

##### (3) 全国盲ろう者協会

この協会は、平成3年に厚生大臣の認可を得て設立されました。当時はまだ都立大学の大学院生だった福島智さんの勉学を支えるべく組織されていた「福島智君とともに歩む会」にヒントを得て、その活動の輪を広げることを目指して設立されました。

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町2-5 神保町センタービル7階

電話：03-3512-5056 FAX：03-3512-5057

## 盲ろう者（ろうベース）へのコミュニケーション支援について

北九州市障害者地域生活支援センター  
コーディネーター 石丸 美穂

### ．はじめに

盲ろう者（目と耳の両方に障害がある方）は、見え方や聞こえ方の程度によって、全盲ろう、全盲難聴、弱視ろう、弱視難聴の4つに分類されることがあります。コミュニケーション方法は様々で、目と耳のどちらが先に見えにくく（聞こえにくく）なったか、またはその時期、それまでに受けてきた教育などによって異なります。また、情報を発信する時と、受信する時のコミュニケーション方法が異なる場合もあり、主たるコミュニケーション方法から、盲ベース（点字）、ろうベース（手話）と呼ばれることもあります。

もともと、目や耳に障害がある方は、私たちが無意識に得ている情報でも、意識しないと入手することができなかつたり、情報量や伝わる時間に差があることなどから「情報障害」と言われることもあり、コミュニケーション方法を確保することは、とても重要な意味を持っています。

### ．Aさんについて

今回ご紹介するAさんは、ろうベースの盲ろう者です。勉強熱心で、読書が好きなAさんの主たるコミュニケーション方法は手話で、その詳細は以下の通りです。

慣れて限られた場所以外での移動には、手引きが必要です。情報を得たり、手話が分からない人と会話をしたりする時には、手話通訳が必要な方です。

このAさんと数年前、私が初めて出会った時のコミュニケーション方法と、その後、様々な関係者の支援を通じて獲得された新たなコミュニケーション方法の2つに分けて説明していきたいと思います。

### ．Aさんのコミュニケーション方法について

#### 1. 出会った時のコミュニケーション方法

##### (1) 手話（触手話） 指文字

Aさんが話す時は、手話や指文字を使います。

Aさんに伝える時は、Aさんが発言者の両手に触れ、手話の形を触って理解します。【写真1】

##### (2) 指で手のひらに文字を書く（手のひら書き文字）

手話が分からない人と話す時や、漢字を伝える時などに使用します。

##### (3) 筆記

文字を書くことは可能でした。手のひら書き文字同様、手話が分からない人と話す時や、Aさんが読み方を知りたい漢字を伝えたい時などに使います。

##### (4) F A X（送信のみ）

紙を折り曲げて作った線に沿って文字を書き、使い慣れたF A Xでの送信は可能でした。（文字を書きやすいよう、クリアファイルに穴を開けたガイドを作成しました。）



【写真1】触手話の様子

左:話し手

右:聞き手

Aさんとのコミュニケーション方法は、直接会って話す以外には、AさんがFAXを送信して伝える方法だけでした。Aさんから送られた「家に来てください」とのFAXを受け取っても、直接は返事ができず、同居しているご家族経由で伝えて頂くしかありませんでした。そのため、ご家族が不在の時は、Aさんと連絡を取ることができませんでした。

## 2. 新たに獲得したコミュニケーション方法

Aさんの希望をもとに、多くの関係者の協力を得ながら、新たに下記のコミュニケーション方法を獲得しました。

### (1) 点字

点字を習得され、点字板（携帯型）【写真2】や点字タイプライター（テラタイプ）【写真3】、点字ディスプレイ（ブレイルメモ）【写真4】を使用できるようになりました。

### (2) パソコン

点字ディスプレイとパソコンを接続することで、パソコンの操作が可能になりました。メールが使えるようになり、双方向の情報交換が可能になりました。



【写真2】点字板  
（携帯型）



【写真3】点字タイプライター  
（テラタイプ）



【写真4】点字ディスプレイ  
（ブレイルメモ）

次に、上記のコミュニケーション方法を獲得するまでの関わりについて、簡単に紹介します。

## ・新たなコミュニケーション方法の獲得に向けた関わりについて

### 1. 点字

「本が読みたい」「メモを取りたい」というAさんの希望から、点字学習が始まりました。

当初は、Aさんの年代の中途失明の方は、点字の習得には時間がかかり、学習は難しいかもしれないと関係者からの指摘もありました。しかし、Aさんの努力はもちろんのこと、盲学校の先生や手話通訳者、ヘルパーなど様々な機関が関わることで、盲学校での点字の学習場面を確保することができ、点字の習得に繋がりました。

点字の読み書きが可能になったことで、食品の賞味期限や服の色、予定をメモしたり、点字で発行された刊行物を読んで情報を入手できるようになりました。

点字を習得することができた効果は大きく、その後のパソコン利用の可能性に繋がりました。

また、盲学校を見学した際に、パソコンや点字ディスプレイを実際に触って情報提供できたことも、その後のパソコン訓練に繋がっていきました。



点字の習得のための支援について

・移動手段と情報保障の確保

目からも耳からも情報を得られないAさんが、学習場所である盲学校まで行くためには、安全に外出する手段の確保が必要でした。事前に、中途視覚障害者緊急生活訓練事業による歩行訓練を受けていたため、サービス調整により安全な外出が可能となりました。歩行訓練の場面にも手話通訳者の確保が必要でしたが、同様に盲学校での学習場面にも手話通訳者の調整が必要でした。

・ろうベースの特性

点字は、ひらがな表記です。漢字も点訳されると、ひらがなで表記されることとなります。

先天性の聴覚障害者であり、手話を主たるコミュニケーション方法としているAさんは、漢字の「音」（読み仮名）ではなく、形で理解している場合があります。そのため、漢字の形が分かっても読みが分からなかったり、読み方を間違えて覚えていることもあり、Aさんが「分からない」と答えた時には、点字そのものが分からないのか、点字で表記された言葉が分からないのか、その確認が必要でした。Aさんに伝わりやすい表現の仕方を、盲学校の先生と手話通訳者が打ち合わせながら、支援が行われました。

一方で、点字の学習を通してAさんが初めて知る言葉も多くあり、盲ろう者の語彙拡充の機会の必要性についても話題になりました。

関わった機関としては、盲学校、手話通訳（学習場面の通訳）、ヘルパー（盲学校までの移動支援）、区役所（制度利用）、障害者地域生活支援センター（各機関の調整）で、協力しながらAさんの支援を行ってきました。

## 2. パソコン

Aさんから届くFAXに返事をする方法としてメールが考えられました。盲学校での情報提供や、関係者からの話題提供などからAさんの「メールをしてみたい」との希望が明確になり、パソコンの利用に向けた取り組みが始まりました。

パソコンの使用経験がまったくないAさんへの導入がどこまで可能であるか、メールやインターネットの概念についてどう説明ができるか、効果的な方法は何か、訓練後のフォロー体制など、関係者での打ち合わせや個別支援会議を開催しながら確認を行い、中途視覚障害者緊急生活訓練事業による訓練の開始となりました。盲学校での訓練同様、移動支援と情報保障の確保が必要でした。

点字ディスプレイ（ブレイルメモ【写真5】）は、単体で使用する方法と、パソコンに接続して使用する方法とがあります。

- (1) 点字ディスプレイ（ブレイルメモ）単体では、
- 点字文書の作成、保存、編集
  - 時計、スケジュール、電卓機能
  - ブレイルメモ同士での通信（チャット）
- などが行えます。



【写真5】点字ディスプレイ  
（ブレイルメモ）

(2) パソコンに接続した場合は、パソコンの画面を読み上げる音声が入力され、点字ディスプレイに表示されることで、パソコンの使用が可能になります。【写真6】

メールの使用による、双方向の意思伝達  
インターネットの活用による、様々な情報入手  
ができるようになりました。



【写真6】ブレイルメモと  
パソコンを接続した様子

Aさんの訓練は、点字ディスプレイ単体での操作訓練と、パソコンに接続しての操作訓練の二段階行われました。

費用負担も考慮し、点字ディスプレイ単体での操作訓練では、パソコンに関連する操作や概念理解の様子をみた上で、パソコンの使用が可能そうであれば次の段階に進む、難しそうであれば点字ディスプレイ単体での使用（時計やメモ機能だけでも効果があったので）を推進することとなりました。

点字ディスプレイ単体で使用できる機能はたくさんありましたが、まずは点字文書の作成、保存、編集と、最低限パソコン操作時に必要となる機能を中心に訓練が行われました。

また、パソコン操作に共通すると思われる概念や操作（エンターキーやフォルダの概念など）の説明は丁寧に行いました。その分時間はかかりましたが、導入に時間を割いたことで理解が深まり、点字ディスプレイをパソコンに接続してからの操作訓練も円滑に進んで行きました。

### ・利用した制度について

Aさんのコミュニケーション方法の獲得のために利用した制度等を紹介します。

- ・盲学校 教育相談（点字の学習）
- ・中途視覚障害者緊急生活訓練（点字ディスプレイ、パソコンの操作訓練）
- ・コミュニケーション支援事業（手話通訳者の派遣、盲ろう者通訳・ガイドヘルパーの派遣）
- ・移動支援事業（ホームヘルプサービス）
- ・日常生活用具給付等事業（点字ディスプレイ：ブレイルメモ、情報・通信支援用具：画面読み上げソフト、点訳ソフト）パソコン本体、メールソフト、ウィルスソフト等は実費購入。
- ・相談支援機関（公的機関：区役所生活支援課、民間相談機関：北九州市障害者地域生活支援センター）  
詳しくは『障害者の福祉ガイド』に掲載されていますので、ご覧ください。

### ・おわりに

盲ろう者のコミュニケーション支援には、基本となるコミュニケーション方法が獲得されているかどうか、大きく影響すると思います。

また、視覚障害者、聴覚障害者それぞれに関わる支援機関の連携が必要であり、視覚障害者の支援者に聴覚障害者の障害特性を理解してもらうこと、またその逆も必要で、チームで関わっていくことが大事ではないでしょうか。

視覚障害者への支援（安全な移動の確保）と、聴覚障害者への支援（情報保障）の両方を備えたサービスの必要性、それを担う支援者の人材確保や専門性も、今後必要になっていくと思います。

いずれにしても、重複障害で、複合的なニーズを持つ方への支援には、一つの機関だけで関わっていくことには限界があるため、ご本人を中心としたチームを作り、制度の狭間の支援も含めて、互いに見えることを見つけていくことが大切だと思います。



障害別支援

# 「失語症」



# 失語症の紹介とコミュニケーション支援

北九州市立障害福祉センター  
言語聴覚士 志賀 美代子

## 1 失語症とは

失語症とは、脳卒中や交通事故などの後遺症でことばの能力に障害が残った状態を言います。話すことだけでなく、聞くこと、書くこと、読むことも不自由になります。

原因は脳卒中（脳出血や脳梗塞）や頭部外傷（交通事故や転落事故）、脳腫瘍などで起こることであり、心理的なショックや精神的なストレスで起こるものではありません。

## 2 失語症になると

失語症になると話しことばだけでなく、聞く、話す、読む、書く、数や計算に関して、全部または部分的に障害されます。具体的には次のような症状がでてきます。

### 聞く

- ・耳は聞こえているのに、ことばの意味が理解できなくなります。
- ・聞いた内容を頭にとどめておくことが難しくなります。
- ・速い話し方や長い文や複雑な内容は理解しにくくなります。

### 話す

- ・言いたいことばが出てこなくなります。
- ・思ったことと違うことばを言ってしまいます。
- ・文章で話すことが難しくなります。
- ・発音がたどたどしくなります。
- ・回りくどい言い方をします。
- ・前に言ったことばが続いて出てしまいます。

### 書く

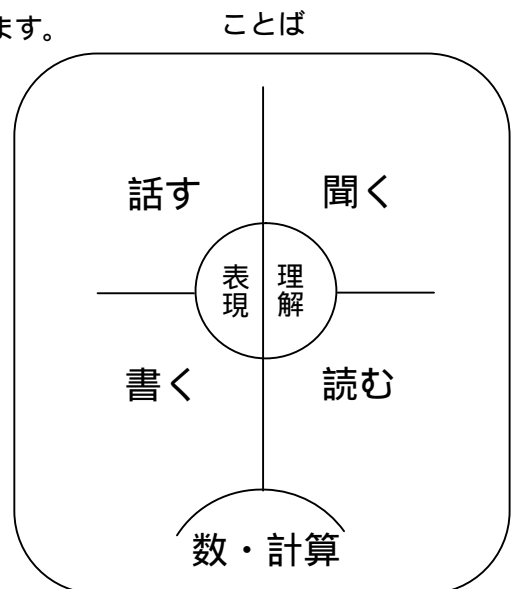
- ・文字を思い出せなくなります。
- ・漢字より仮名が難しいです。
- ・書き誤りがあります。
- ・助詞を間違えたり、文にならなかつたりします。

### 読む

- ・読んで理解することが難しくなります。
- ・特に漢字より仮名が難しいです。
- ・声を出して読むことが難しくなります。
- ・読んで意味がわかってないことがあります。

### 数・計算

- ・数字は聞くより見る方が理解しやすいです。
- ・言いたい数字と違う数字を言ってしまいます。
- ・計算も難しくなります。特にかけ算や割り算は難しくなります。



### 会話例

何が食べたい？「うどん」  
（本当は天井が食べたいのに）  
「わからんね・・・ぼうしを・・・  
ぽーんと・・・すてた・・・」（ポツリポツリ話す）  
「だいたい40ふんくらい あとはこれや いろいろ いって  
いまやって あそこで あつて・・・」（肝心のことが言えない）

### 3 失語症のタイプと重症度

失語症の言語症状は様々で、重症度も様々です。以下に代表的なタイプをあげてみます。これにピッタリ当てはまらなくても、何が難しいのか、どうしたら分かるのかなど細かくみていくことが大切です。

#### 運動性失語

ことば数が少なく、たどたどしい話し方になります。聞いて理解することも難しくなりますが、話すことよりは良好です。漢字に比べて仮名文字が難しいです。

#### 感覚性失語

なめらかにペラペラと話すことができますが、何を言いたいのか肝心なことばは出ない、間違うなど意味がわかりにくい話し方になります。聞いて理解することが難しくなります。自分の障害に気づいていない場合もあります。

#### 健忘失語

日常的な会話の理解はほぼでき、会話もできますが、物の名前や固有名詞が言えないことが多いです。言いたいことばが出ずに、まわりくどい言い方になります。

#### 全失語

理解も表現もとても困難になりますが、その人の感情に強く訴えるようなことばや状況の理解を借りたときに理解できることがあります。コミュニケーションの意欲はあり、身振りや何かを指し示すなどで伝えようとします。数を数えたり、歌ったりはできることもあります。

### 4 失語症になっても保たれる側面

ことばでは表せなくても日常的なあいさつや感謝の気持ち、お詫びの気持ち、その場にふさわしい態度をとることはできます。

その人らしい人格は変わることはありません。

出来事の記憶や時間や場所の感覚は変わりません。質問されてことばで答えられないことがあっても、カレンダーや地図などを見せたり、筆記用具を用意したりすると、正しく答えることができます。

状況の中での気づきや判断はできます。いつも来ている人が休んでいると、どうしてなのかなどか、約束の時間に到着できるように早く出ようなどと、家族に身振りや指さしやことばで伝えようとします。

社会情勢や様々な出来事にも関心を持っていますし、それに対しての意見も持っています。また以前やっていた趣味（例えば、碁や将棋や麻雀など）は、同じように楽しむことができることも多いです。

### 5 失語症と一緒に起こりやすい症状

失語症は脳の左半球にある言語中枢が損傷されるために起こるので、右片麻痺を伴うことが多いです。日常生活の様々な行為が難しくなります。

同じように視野障害、右半側空間無視を伴うことがあります。食事のときに食べ残してしまったり、障害物にぶつかったりします。

集中力が低下して疲れやすくなります。病前には何気なくやれていた人の話を聞く、自分の思っていることを伝えるということにかなりの集中力を必要としてしまいます。

## 6 失語症と間違えやすい他の障害

### 運動障害性構音障害

発声発語に必要な器官（口唇・舌など）の運動が障害され、声や発音の異常が起こり、話しことばが不明瞭になります。聞いて理解することや読み書きは問題がありません。ですから50音表のような文字盤の使用でコミュニケーションがとれます。

### 失声症

声が出なくなる病気で、声帯の異常で起こります。精神的ストレスでも起きます。筆談は可能です。

### 認知症

脳の器質的病変により、一度獲得された知能が持続的に低下し、それによって日常生活に支障をきたす状態です。

## 7 失語症から起こる様々な問題

障害が理解されにくいことです。心理的な原因でしゃべれなくなったとか、失語症になっても筆談ならできるとか、50音表のような文字盤があれば言いたいことばを指さしてもらえないのではなかと誤解されていることがあります。

交流が少なくなり、孤立しがちになります。周囲の人はどうして話しているのかわからない、どうせわからないからと話しかけるのをやめるなどとなります。また、本人も言いたいことを言うのに時間がかかってしまうので、申し訳ない、イライラさせると思いあきらめることがあります。仕事や学業を続けられなくなります。仕事そのものにことばを使うものは多いし、職場では常にことばでのやりとりが必要です。学業ではまさに話しことば書きことばが基本となります。ことばの障害があるとこれは大変難しくなります。

失語症の本人だけでなく、家族にも混乱がおきます。失語症の人とスムーズにコミュニケーションがとれないことで、家族は大変困ります。また、職業を失う、子育てが難しくなるなど家族が抱える問題はとても深いものです。

## 8 失語症の人とのコミュニケーション

人格を尊重した接し方をします。病前と同じ語調やことばづかいを心がけましょう。

会話は落ち着いた雰囲気の中で行います。聞く側がイライラしていると失語症の人は混乱してますます言えなくなります。

お互いの表情がわかるような位置で会話します。

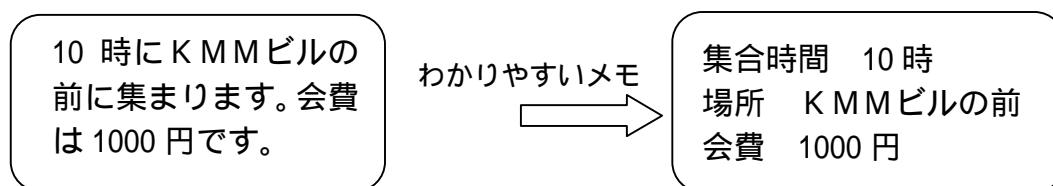
失語症の人のお話を最後までゆっくりと聞きましょう。途中で遮ったり代わりに言ったりせずに、最後まで聞きましょう。

同じことを言うのにも短い簡単なことばで表現しましょう。

間を十分に入れて話しかけましょう。

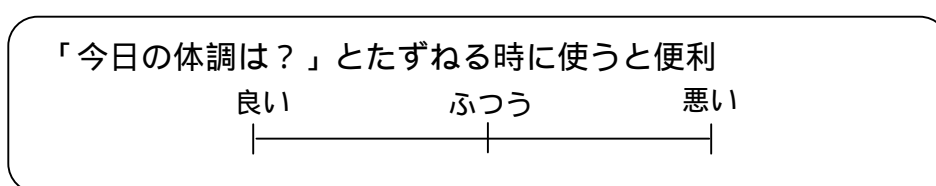
悪い例	きょ・う・は・い・い・て・ん・き・で・す・ね
悪い例	きょう・は・いい・てんき・ですね
良い例	きょうは・いいてんきですね

伝わったかどうか確認しましょう。伝わらなかったら、繰り返して話したり、別の言い方で言ったり、字や絵を使って伝えましょう。



ことばで言うことが難しい人には「はい、いいえ」や身振りで答えられるように会話を進めましょう。

50音表を指さして表現することは、失語症の人にとっては難しいことです。絵や記号（×〒？等）図、文字を利用しながら、会話を進めましょう。平仮名より漢字の方が理解しやすいです。



カレンダーや地図や写真などがあると話題が広がり、会話が楽しめます。

ことばの回復には生活の中での生きた言語刺激が大切です。買い物や映画に行ったり、家族で出かけたり、客を呼んだり、家族と食事するなど、ことばの環境を大切にしましょう。

## 9 失語症の人への支援

### 言語リハビリテーション

失語症のように脳の神経細胞に損傷を受けた場合には、再生は難しく、障害が残ってしまいます。しかし積極的にリハビリテーションを受けることで障害を少しでも軽くし、残った機能をいかして、豊かな生活を送っていくことができます。

失語症のリハビリテーションを専門的に担うのは言語聴覚士（ST）です。STのいる病院、施設で専門的なリハビリを受けることができます。（言語聴覚士のいる施設一覧 福岡県言語聴覚士会HP参照 <http://homepage3.nifty.com/fukuoka-st/>）

### 集団言語リハビリ教室

北九州市立障害福祉センターでは、病院でのリハビリが終了した人に対して、失語症を抱えながらも豊かな社会・家庭生活を送るために、集団言語リハビリ教室を開いています。（北九州市HP参照 分野別 健康・福祉・人権 障害者の福祉 施設案内 <http://www.city.kitakyushu.jp/>）

連絡先 北九州市立障害福祉センター 言語聴覚士 電話 093-522-8724

## 失語症友の会と交流事業

北九州には失語症者とその家族のための集いとして、失語症友の会「あすの会」があります。

言語に障害をもった仲間がお互いに励ましあいながら、よりよいコミュニケーション関係づくり、社会参加などを目指し、情報交換、親睦活動を行っています。また、広く失語症の人へ呼びかけ、交流事業を行っています。

### 定例会および交流事業

日時 毎月第2日曜日（原則） 10時～14時

場所 ウェルとばた6階

東部障害者福祉会館 電話 093-883-5550

## 失語症会話パートナー

失語症会話パートナーとは、失語症の人が抱える悩みや不便さを理解し、意志の疎通を援助する専門ボランティアです。

福岡県失語症会話パートナー養成「あんど」は、言語聴覚士による団体で、福岡県内の失語症会話パートナーの養成と活動支援を行っています。

北九州市で活動している失語症会話パートナー「あんど北九州」は、北九州失語症友の会「あすの会」の例会を軸に、失語症の方が集まる場での会話支援を行っています。

（あんどHP参照 <http://www14.ocn.ne.jp/~and/>）

文献 地域ST連絡会失語症会話パートナー養成部会編集「失語症の人と話そう - 失語症の理解と豊かなコミュニケーションのために - 」中央法規,2004

障害別支援

「肢体不自由」

## コミュニケーション支援のための援助の考え方と具体的事例 機器操作のための援助を中心に

北九州市立総合療育センター  
理学療法士 阿部 光司

### はじめに

北九州市立総合療育センターでは、ハイテク外来でのコミュニケーション支援や日常生活で使用する様々な道具を使用するための援助を行っています。このような援助を行う上でポイントになる視点と乳幼児期からの関わりの重要性について述べ、具体的な事例を提示します。

#### ・機器の選択について

機器の使用目的や使用範囲などを十分に把握する必要があります。また、パソコンを使用する時には、身近にパソコン使用そのものへの援助ができる方がいるかも把握する必要があります。身近に援助者がいない場合は、支援団体や関係機関への紹介も行います。具体的な内容については、以下の通りです。

##### 1. 使用目的

- 1) 音声でのコミュニケーションが目的
- 2) 手紙など文字でのコミュニケーションが目的
- 3) E-mail や Web 閲覧などが目的

##### 2. 使用範囲

- 1) 外出時など不特定な範囲
- 2) 家や学校など特定の範囲
- 3) 家など限定された範囲(場所)

音声でのコミュニケーションが目的で使用範囲が不特定な場合は、携帯型会話補助装置が選択肢となります。しかし、E-mail などが目的であり、使用範囲が不特定の場合は携帯電話やモバイル型パソコンなどが選択肢となります。使用範囲が限定されている場合には、ノート型パソコンを中心に検討します。

#### ・機器操作について

##### 1. 携帯型会話補助装置

- 1) パネル操作が困難な場合には、外部入力を利用します。外部入力用の機器は次で説明します。

##### 2. パソコン

###### 1) 標準的な機能での配慮

###### (1) マウス操作ができない場合

Windows 系の OS であれば、マウスキー機能を利用することができます。この場合、別売りのテンキーが必要になることがあります。また、文字入力はオンスクリーンキーボードを併用することで可能となります。

マウスの代替機器である「こねこの手2」や「らくらくマウス」などの機器を使用することで代償することができます。「こねこの手2」などが使用できる場合は、キーボード操作はキーガードを使用するなどすれば、可能になることがあります。

#### (2) キーボード操作ができない場合。

マウスなどの使用が可能な場合は、オンスクリーンキーボードを使用することができます。

また、キーガードを利用すると解決することがあります。

「Shift」や「Ctrl」など2つ以上のキーを同時に操作できない場合には、キーロック機能を併用することで解決することがあります。

マウス操作、キーボード操作ともに困難な場合

「伝の心」や「オペレートナビ」など支援ソフトを利用します。この場合、一般的には、特殊な入力方法を選択することになります。

### ・入力機器の選択と入力方法

入力機器の選択と入力方法の決定は以下のような視点で行います。また、機器操作を行う姿勢や肢位で確認します。

#### 1. 随意運動が可能な部位と運動の方向の確認

「肘を伸ばす」など入力動作が可能な部位と運動方向の確認を行います。1部位1方向だけでなく複数の部位や複数の方向で入力が可能であれば、機器操作は効率が良いです。「まぶた」や「舌」などの場合はセンサースイッチを選択します。「肘」など大きな関節な場合は、2.以下の手順を行います。

#### 2. 運動範囲の確認

随意運動可能な範囲を確認します。これによって、入力機器を設置する場所が決定されます。範囲が非常に狭い場合は、センサースイッチを選択することもあります。

#### 3. 運動の強さ(筋力)を確認する。

入力機器を操作するために必要な運動の強さを確認します。強い力で操作が可能な場合は、機械スイッチを選択します。また、力が弱い場合はセンサースイッチを選択します。これは、入力の効率だけでなく、入力機器の破損などを避ける目的もあります。

### ・乳幼児期からの配慮

コミュニケーション支援機器を使用するためには、スイッチを押す画面を見るなどの動作が必要になります。ここでは「スイッチを押すと音声ができる」「このコマンドを選択すると文字が入力される」など因果関係(二項関係や三項関係)が成立する必要があります。しかし、脳性麻痺などの疾患では、知的障害を併発していることが多く、機器操作の理解が進みにくいことがあります。コミュニケーション機器が必要になった時に、すぐに操作が理解できるような配慮が乳幼児期から必要です。具体的には、玩具にBDアダプターを取り付け、スイッチを操作すると玩具が動くといった経験を早期から行うことで因果関係の学習を行うべきです。



## ．具体的事例

### 1 . 脳性麻痺 不随意運動型 10代

構音障害があり、音声不明瞭でした。中等度の知的障害があり、ひらがなを読むことは困難です。ご家族はトイレ介助や食事介助時に必要な援助依頼を誰にでも伝えられることを希望されました。家庭と学校の他にデイサービスも利用されており、使用場所としては、比較的広い範囲となる可能性がありました。上肢の随意性はよくスイッチの操作は、問題ないと判断しました。

- 1) 使用機器：レッツチャット 外部入力なし。
- 2) 使用方法：レッツチャットのボタンに必要な援助依頼をシンボルと文字で表示しました。ボタン部分を押すことで、「トイレに行きたいです」「ありがとうございます」などの音声登録し、日常生活での援助依頼は可能となりました。



レッツチャット（写真左上）とパソコンの接続

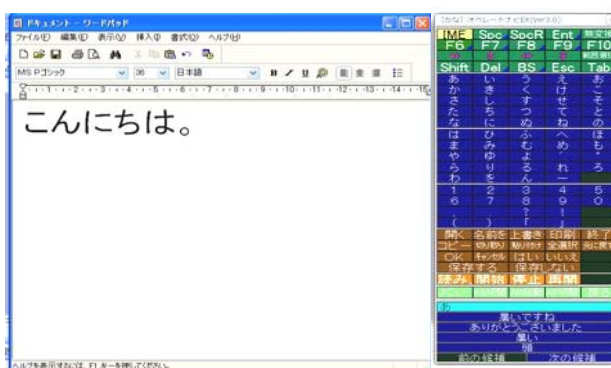
### 2 . デュシエンヌ型筋ジストロフィー 10代

会話は可能でしたが、声が小さく聞き取りにくく、E-mail を使い友人とのコミュニケーションを希望されました。週2回のデイサービスを利用されていましたが、使用場所は家庭に限定されていました。手指の動きが最も確実な動きでした。

- 1) 使用機器：ノート型パソコン・オペレートナビ、スペックスイッチを使用
- 2) 使用方法：オペレートナビを自動スキャンに設定しました。また、コマンドをグループに分類し、グループ毎のスキャンを数回繰り返し、目的のコマンドを選択するようにしました。



スペックスイッチとパソコンの接続



オペレートナビ画面

北九州市立総合療育センター

〒802-0803 北九州市小倉南区春ヶ丘10-2

電話：093-922-5596

# 肢体不自由の障害がある方へのITを活用したコミュニケーション支援を通して

北九州市障害者地域生活支援センター

立目 章

## はじめに

重度の肢体不自由があるMさんのコミュニケーションの手段としてコンピュータなどのIT（Information Technology）を活用したコミュニケーション支援の様子や支援者の関わりなどを紹介します。また、支援を通して感じた在宅障害者へのコミュニケーション支援の課題などについても述べたいと思います。

## Mさんについて

Mさんは、脳性麻痺（アトローゼ型）による肢体不自由1級で、寝返りや座ったりするのも介護がないと一人ではできません。上肢は動くのですが、自分の思った通りの動きができないために、物をつかんだりすることが難しい場合があります。Mさんに出会ったのは、今から10年くらい前ですが、電話をかけたり、手紙を書いたりすることができず、Mさんとやり取りをするには、自宅に訪問し、直接話しをするしかありませんでした。

自分で手紙を書きたいというMさんの希望で、コンピュータの利用に向けた取り組みが始まりました。

## コンピュータの利用

上肢に障害があるためにキーボードによる入力をするのができない場合には、障害状況に応じた入力スイッチ（以下、スイッチ）と、文章作成やメール、インターネットができる専用のソフトを利用します。

Mさんがコンピュータを利用するために、どのようなスイッチであれば確実に入力できるかの検討から始めました。

Mさんは、握ったり、つまんだりすることはできるので、その動きを活用することを考え、幾つかのスイッチを試しました。親指の動きで入力するスイッチが使い易いということでしたので、写真1にある入力スイッチとワープロソフトで、入力練習を行いました。



写真1

利用したワープロソフトは、ひらがなの五十音表が表示されていて、まず「あ」「か」「さ」「た」「な」など、各行を枠が順次移動します。入力したい行でスイッチを押すと、次はその行内を枠が移動します。

例えば、「さ」行でスイッチを押すと、「さ」「し」「す」「せ」「そ」と、移動する感じです。入力したい文字のところでスイッチを押すと、その文字が決定されます。これを繰り返して、単語を入力します。もちろん、ひらがなから漢字に変換することもできます。このソフトを活用して、入力練習をすることにしました。



写真 2

ここまでは、北九州市障害者地域生活支援センターの職員が行ったのですが、十分な訓練時間が確保できなかったため、以後は、パソコンボランティアの人が入力練習を支援しました。

当初は、うまく入力できなかったのですが、Mさんの「自分で手紙を書きたいという強い気持ち」とパソコンボランティアの丁寧な対応もあり、暑中見舞いや年賀状を出すことができました。

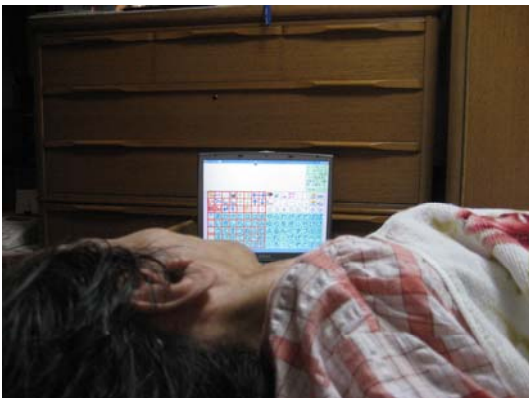


写真 3

今では、ハーティラダー（写真 2）という肢体不自由の方用に開発されたソフトを活用して、メールでのやり取りができるようになっています。

### 携帯電話の利用

コンピュータはうまく利用できるよようにはなったのですが、一つ問題がありました。それは、一人ではコンピュータやスイッチの準備ができないということでした。同居している家族では、操作は難しいので、これまでもパソコンボランティア、パソコンサポーター（北九州市独自の制度）やMさんの入浴介護などで利用しているヘルパーに手伝ってもらってきました。



写真 4

そこで、支援センターの職員が、肢体不自由の障害がある方でも使える携帯電話を紹介し、導入を検討することにしました。NTTの協力で、デモ機で試したところ画面が小さいくらいで問題なく利用できました。

福祉用具プラザ北九州の作業療法士に携帯電話を目の前に固定する補助具を作成してもらいました。これで、自分で必要な時にメールができる環境が整いました。（写真 4）

## 在宅障害者へのITを活用したコミュニケーション支援における課題

Mさんのように在宅で生活している方へのIT支援を考えた時、「情報」「機器等の選定、導入援助」「日常生活の中での利用援助（アフターフォロー）」などの課題があります。

### 情報について

障害のある人たちが利用できるように開発された機器、ソフトは多く、その情報もインターネットなどでも簡単に入手できるようになっています。

また、「北九州市障害者パソコンサポーター派遣事業」等の制度や障害者のパソコン活用を支援している機関・団体なども増えています。

しかし、必要な障害のある人や家族に、情報が届いていないという現状があります。

今回、紹介した障害者用に開発された携帯電話なども、「そんな製品があるのですか」「そんなことができるのですか」と障害のある人に関わる仕事をしている人からも聞かれます。

まだ、福祉現場において障害のある人たちへのコミュニケーション支援が重視されていないために、情報が共有されていないのではないのでしょうか。まずは、関係者への「コミュニケーション支援の重要性」の周知、啓発が必要と思われる。

### 機器等の選定、導入援助について

障害に応じた機器選定していくということは、押さえておかなければならないポイントの一つです。情報提供のみで使える場合もありますが、Mさんのような障害ではフィッティングが不可欠です。リハビリなどを受けている場合には、訓練士に助言してもらう場合もあります。

また、Mさんの場合もそうだったのですが、導入訓練が必要な場合があり、誰がその援助をするのが課題になります。特に、期間が長くなればなるほど、きちんと対応できる支援者が少なくなってしまう。Mさんのように、複数の支援者で協力していくような工夫が必要です。

### 日常生活の中での利用援助（アフターフォロー）について

ある程度利用できる環境が整ってくると支援者の関わりが少なくなってきました。入力装置やコンピュータの調子が悪くなった時や障害の状態が変化して、利用できなくなった時にきちんと対応できる体制が必要なのですが、十分ではありません。

進行性の疾患である筋萎縮性側索硬化症（ALS）の方には、制度で機器が給付されますが、進行に伴い使えなくなったので、使用をやめてしまったという方に出会うことがあります。

相談窓口を本人、家族や関わっている支援者にきちんと伝えておく必要があります。

### 最後に

このような課題を踏まえながら、Mさんのコンピュータ活用のためにいろいろな支援者が、必要に応じて関わっています。このようなトータルな支援体制があつてこそ、それぞれの支援者の役割がきちんと果たせると思います。

障害の状況に応じて機器等が給付される等、物や人による支援の制度があります。また、携帯電話など、障害に対応した機種や料金の減免制度などもあります。

最後に、MさんがIT支援で利用した制度、減免制度、機器や支援機関を紹介しておきます。

利用については、障害状況などの条件もありますので、確認をして下さい。

障害児・者の民間の相談窓口

北九州市障害者地域生活支援センター（０９３－８６１－３０４５）

北九州市障害者パソコンサポーター派遣事業

北九州市障害福祉ボランティア協会（０９３－８８２－６７７０）

パソボラネット北九州（０７０－５６９０－４８０３）

福祉用具プラザ北九州（０９３－５２２－８７２１）

肢体不自由者用ソフト HeartyLadder(ハーティー ラダー)

<http://takaki.la.cocan.jp/hearty/>

携帯電話 FOMA D800 i D S

（現在製造はしていないので、在庫の確認が必要です）

<http://at2ed.jp/pro/productDetail.php/productid/P1880/categoryid/242>

携帯電話料金減免制度

対象者は、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を持っている方

内容は、NTTドコモ、ソフトバンク、au各社で減免の内容が異なります

ので、確認して下さい。

障害別支援

「難 病」

## 福岡県重症神経難病ネットワークにおけるコミュニケーション支援について

福岡県重症神経難病ネットワーク  
難病医療専門員 上三垣 かずえ

### 1 重症神経難病ネットワークとは

国の難病対策として、神経系難病で療養されている患者さまのための身近な入院施設の確保等を図るため、**重症神経難病患者入院施設確保事業**が開始され、各自治体に難病医療連絡協議会を設置し、難病医療拠点病院を指定、そこへ難病医療専門員を派遣し、入転院などに関する相談機関として設立されたものです。

福岡県は拠点病院を九州大学病院、準拠点病院を産業医科大学病院とし、それぞれに看護師資格を持った難病医療専門員が、難病医療連絡協議会の業務（医療機関との連絡調整、各種相談応需、拠点・協力病院への入院要請、研修会開催）を受託するとともに、連絡窓口を設置し、高度の医療を必要とする患者さまの受け入れ等の機能を担っています。

現在、基幹協力病院 15 施設、一般協力病院・診療所 108 施設にご協力をいただき、業務を行っています。

対象疾患は神経系難病 30 疾患です。

対象疾患・連絡先などの詳細は、別紙（ネットワークパンフレット）をご参照ください。

### 2 神経難病患者さまへのコミュニケーション支援

福岡県重症神経難病ネットワークでは、機器の貸与や技術面での独自の支援は実施していませんが、それ以前のコミュニケーション支援の導入までの過程をお手伝いしています。

#### 意思伝達ができなくなること・・・

神経難病は原因不明の進行性の疾患で、特に筋委縮性側索硬化症は、運動神経が関わる機能は全て失われていくため、運動、コミュニケーション、嚥下、呼吸等の重要な機能が侵され、ADL(日常生活動作能力)の著しい障害、QOL(生命生活の質)の低下をきたします。生命の維持には、胃瘻栄養、コミュニケーション装置、人工呼吸器の3つの生命維持装置が必要です。コミュニケーションは、即、命には係わらないため軽視されがちですが、ご自分の意思を伝える大切な手段です。最終的には脳波レベルで YES・NO を伝えるしかない状態が訪れます。しかしながら、意思伝達ができなくなるのがどんなに大変なことなのか なかなか理解してもらえないのが現状です。

#### コミュニケーション支援に繋がるまで・・・

ご自分の生き方の選択をしていただくために、ほとんどの方に予後の告知がなされます。その際、早めのコミュニケーション手段の習得を促すのですが、「認めたくない現実を突き付ける、ひどい医療者」と認識されることも珍しくなく、介入のタイミングに苦慮している現状があります。折につけ患者さまやご家族にお会いし、説明を繰り返すしかありません。



## 外部機関への支援要請

受け入れができれば、早々に専門機関に支援をお願いしています。

### 政令都市（福岡市、北九州市）

各市障害福祉センターに依頼。給付意見書の作成のための訪問評価から、本人家族のニーズを把握したうえでの申請の援助、及び、機種を選択、フィッティング、スイッチの変更などの継続的な対応まで実施していただいています。

### その他の地域

そういった専門機関が無く、保健師や業者及び県のNPO団体と連携し、支援を行っていますが、十分な支援ができていないのが現状です。支援が不十分なことから、せっかくコミュニケーション機器が手元にあっても使えず、QOLの低下につながっている方も多く、現在の懸案事項です。



# 福岡県重症神経難病ネットワーク

よりよい療養環境の整備を目指しています

- ◆ 福岡県重症神経難病ネットワークは、神経系難病で療養している方の相談窓口（県の団体）です。
- ◆ 看護師の資格を持った、専任の難病医療専門員がご相談をお受けします。

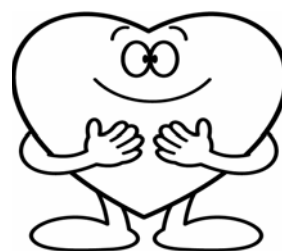


- 病院のご紹介をしています。  
入院先の確保が難しい場合、主治医を通して連絡をしてください。難病医療専門員が関係機関との調整をいたします。
- 療養に関するご相談をお受けします。  
電話・メール・面談の三つの方法でお話を伺い、情報提供や関係機関の調整をいたします。

対象疾患は、神経系難病 30 疾患です

筋萎縮性側索硬化症	脊髄小脳変性症	パーキンソン病	多発性硬化症
脊髄性進行性筋萎縮症	進行性核上性麻痺	フィッシャー症候群	慢性脱髄性多発神経炎
球脊髄性筋萎縮症	シャイ・ドレーガー症候群	ギラン・バレー症候群	重症筋無力症
脊髄空洞症	亜急性硬化性全脳炎	アミロイドーシス	スモン
ライソゾーム病	致死性家族性不眠症	ハンチントン舞蹈病	ミトコンドリア病
ペルオキシゾーム病	進行性多巣性白質脳症	線条体黒質変性症	神経線維腫症（Ⅰ型、Ⅱ型）
単クローン抗体を伴う末梢神経炎（クロウ・フカセ症候群）		ゲルストマン・ストロイスラー・シャインカー病	
ウィリス動脈輪閉塞症	クロイツフェルト・ヤコブ病	結節性硬化症（プリングル病）	
多発限局性運動性末梢神経炎、ルイス・サムナー（・パリー）症候群			

- 福岡県内のどの病院にかかっている方でも無料で利用できます。
- お電話での相談は、平日 9 時から 17 時までです。
- メール・FAX は 24 時間対応ですが、お返事にお時間をいただく場合がございます。
- 面談をご希望の方は、必ず電話で予約をしておいでください。



ご相談はこちらまで

福岡・筑後にお住まいの方	九州大学病院 北2階 ブレインセンター前	難病医療専門員 岩木三保 miwaki@neuro.med.kyushu-u.ac.jp	TEL:092-643-1379 FAX:092-643-1389
北九州・筑豊にお住まいの方	産業医科大学病院 東別館 重症神経難病療養相談室	難病医療専門員 上三垣かずえ soyokaze@mbox.cinc.uoeh-u.ac.jp	TEL/FAX: 093-603-1617

<http://www.med.kyushu-u.ac.jp/nanbyou/nanbyou/index.html>

## A L S 患者への長期サポート事例

パソボラネット北九州  
村上 郁夫

### 1. はじめに

パソボラネット北九州は、2001年に北九州市内で開催された視覚障害者対象のパソコン講習会をサポートしたボランティアがその後も集まり、同年11月に設立した任意団体です。

活動の趣旨は、パソコンのサポートを通じ、障害者の情報バリアフリーを支援するとともに、社会参加と自立の促進に寄与し、パソコンボランティアの技術の向上を図ることを目的に活動しています。

メンバーは、勤労者が中心となっており、ボランティアの機動性を発揮して、北九州市のみならず、その近郊までもサポートに出かけています。

また、毎月定期的に相談会を開き、障害の種別に関係なくパソコンに関するすべての相談に対応しています。

現在まで、100名を超える障害者にサポートを行っています。

### 2. 事例

この事例では、主にパソコンの操作支援を行いました。

また、北九州市や周辺地域の公的機関や制度との連携を行い、依頼者の要望にこたえました。

#### (1) 依頼者

Aさん、女性、40歳代、市外在住

障害は、ALSによる四肢麻痺ですが、最初の依頼の時は、歩行が可能な状態でした。

現在は、自宅を離れて入院中です。

#### (2) 出会い

2003年7月にパソコンの購入補助として依頼を受けました。

依頼の動機は、医療機関でALSと診断され、徐々に麻痺が進行していたため、意思伝達装置(パソコン)に慣れる目的でパソコンを購入したいというものでした。

Aさんの自宅近くに家電量販店がなかったため、女性ボランティアと一緒に市内でパソコンを購入しました。

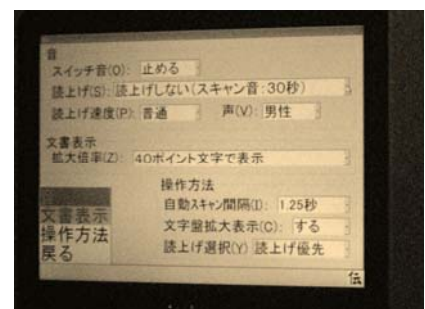
この後、Aさんの要望で自宅までボランティアが同行して、初期設定をした後、簡単な操作説明をしました。

#### (3) 長期サポート開始

しばらく連絡がありませんでしたが、2005年10月に連絡がありました。

北九州市内の病院に入院し、意思伝達装置(伝の心<sup>\*1</sup>)の交付

を受けたけれども、練習中に動かなくなるので操作方法を教えてほしいという依頼でした。



伝の心画面

Aさんの状態は、最初にお会いした時とは大きく異なり、マウス操作（移動とクリック）がわずかにできる状態で、キーボード入力はできませんでした。

まずは、関係機関（福祉事務所と町役場）と納入業者に連絡を取り、操作に対するサポートが可能かたずねました。

関係機関の回答は、「このようなサポートをしたことがなく、説明書を読んでほしい。」というものでした。

読みたくても説明書を持っていないことと、Aさんと納入業者がもめていたため、自分達がサポートすることになりました。

次に、入院している病院に行き、団体の説明と病室への入出許可をとり、Aさんに面会して次回以降のサポート計画を立てました。

一番やりたいことをお聞きすると、お友達とのメールと、同じ病気の方のホームページを見て掲示板に書き込みをしたいとおっしゃっていました。

この時お聞きしたところ、パソコンの基本的な操作は、公民館で行われているパソコン講座に参加して学び、そのときに知り合った人に、伝の心に似たソフトである Hearty Ladder<sup>\*2</sup>をインストールしてもらって練習したそうです。

サポートは、パソボラネット北九州のメンバーであり、北九州市障害者パソコンサポーター派遣事業<sup>\*3</sup>のサポーターでもある人が行いました。

この人は、北九州市障害者パソコンサポーター派遣事業で、北九州市内の ALS 患者へのサポート経験がありました。

依頼事項や内容の確認は、最初は、Hearty Ladder の入ったパソコンから行っていましたが、病気の進行と伝の心の操作の慣れにしたがって、伝の心の入ったパソコンから行うようになりました。

入院中は、OTや医療スタッフの協力もあり、伝の心を毎日使用していたようです。

#### （４）サポート内容

私たちは、最初の訪問から 1 週間に 1 度訪問するようにして、20 回のサポートをしました。

そのうち最初の 13 回は、伝の心の基本的な操作方法と、伝の心を使ったホームページ閲覧操作、機器のメンテナンスとその操作方法について行いました。

私たちが行ったサポート項目をまとめると、以下の 8 項目になります。

- （ ） Hearty Ladder の入ったパソコンから、伝の心へのデータ移動  
（主にアドレス帳）
- （ ） 伝の心の基本的な操作方法
- （ ） 伝の心のメールの送受信  
（文字入力とメール環境の設定と伝の心での操作、通信は PHS カード）
- （ ） 文書印刷  
（文章作成からプリンターで印刷するまで）
- （ ） テレビのリモコンを伝の心で操作
- （ ） Windows のアップデート  
（その時点までの全てのアップデートファイルを CD に焼いて実行）



- ( ) PDF ファイルのダウンロードと閲覧  
(日本ALS協会の会報を読みたいという依頼から)
- ( ) ホームページ閲覧のための Windows 操作  
(他のALS患者が作成したホームページに寄稿するため)

2006年2月、最初の訪問から17回でいったんサポートを終えることにしました。  
終了時には、不具合が起きたり、新たな依頼がある時は、あらためて連絡をいただくように伝えました。

#### (5) その後

Aさんは転院されましたが、転院先でも伝の心を日常的に使用されていたようです。  
時々サポートの依頼が入りましたが、場所が遠くなったこと、病院スタッフが対応できたこと、担当する福祉事務所の人が動いてくださったことから、私たちが動くことはありませんでした。  
現在は自分のブログを作り、ブログへの書き込みと書き込んでくれた人たちへの返信をしています。

### 3. 成果

- ・早期にパソコンに慣れて準備をしていたAさんの努力や、Aさんの周囲の医療スタッフや関係機関がうまくつながって、比較的短時間に操作を習得できました。
- ・Aさんは、自分の意思を他の人に伝えることを続けられています。
- ・Aさんは、気管切開をする(声を失う)ことをためらっていましたが、ブログの投稿などから生きることを選びました。
- ・パソボラネット北九州は、いろいろな機関や企業と連絡がとれ、情報を得ることができました。

### 4. 課題

今回は、17回にもおよぶ、私たちにとっては考えられないくらいの回数のサポートができましたが、通常ではメンバーのほとんどが働いているため、数回訪問するのが限界です。

また、パソボラネット北九州は任意団体のため、公的な機関との連携や企業からの支援が受けにくく、特に情報共有ができにくいことがありました。

北九州市では、意思伝達装置の交付後は、北九州市障害福祉センターが、基本的な操作方法やスイッチや操作環境のフィッティングを行っているためサポートすることがありませんでしたが、周辺の地域では、フィッティングをする機関が近くになく、機器の説明や基本操作をボランティアが行わなければならないことがありました。

今回のサポート中は、小さく聞きにくい声でしたが、Aさんの意思をすぐに確認できました。  
しかし、気管切開していた場合、どのようにして相手の意思を受け取るのかわかりませんでした。  
今回は、合計20回ものサポートをしましたが、その中で明らかにサポートすべきでないことを頼まれることがありました。

信頼されることは大変うれしいことですが、依頼する人との距離感を持つことが大切と感じました。

## 5 . 最後に

Aさんは、気管切開をし、動く部分も限られてきていますが、毎日を精一杯生き生きと暮らしているようです。

これからも、私たちができる限りのサポートはしていきたいと考えています。

パソコンボランティアに関して、ご質問や依頼がありましたら、メールか電話でお願いします。

E-mail:[psvk@infoseek.jp](mailto:psvk@infoseek.jp)

URL <http://psvk.web.infoseek.co.jp/>

電話 070 - 5690 - 4803

- \* 1 : 重度障害者用意思伝達装置（パソコンとソフト、スイッチで構成）
- \* 2 : 吉村隆樹氏開発の文書作成・メール送受信・ホームページ閲覧用フリーソフト
- \* 3 : 北九州市が2002年から始めた、障害のある人を対象にしたパソコンサポート制度

障害別支援

# 「発達障害」

## 発達障害者のコミュニケーション支援について

北九州市立小倉北特別支援学校

赤瀬 理恵

### 1. はじめに

「発達障害」は「見えにくい障害」とも呼ばれることもあります。発達的には遅れや偏りがわずかであったり、部分的であったりすることから、日常生活を送る上では「障害」と思われにくく、「ふざけている」「本人の努力不足」「親のしつけがなっていない」などの誤解を受けやすいのです。

乳幼児期の健康診断でも「問題ありませんよ」「もう少し様子を見ましょう」と言われるケースが多く、本人や家族が生きづらさや漠然とした不安を抱えたまま過ごすこともあります。何となく違和感や不都合を感じるものの、「そういうものだ」と思って過ごし、思春期以降になって自分に障害があることが判明して、ようやく納得できたというケースもあります。うまく自分の障害と向き合うことができればよいのですが、生きづらさでイライラが募って暴言・暴力などの問題を引き起こしたり、対人関係のトラブルなどから不登校や引きこもりになったり、いじめを受けたりするケースも見られます。

このような「見えにくい障害」を抱えた方々と、よりよいコミュニケーションを図るためのヒントを見つけることができれば・・・と、日々の取り組みの中で行っていることを述べさせていただきます。

### 2. こんなこと、ありませんか？

「困ったなあ」と感じた事例をいくつか挙げて、具体的な手立てについて考えてみましょう。

#### ケース1

全体に指示して「わかった」ような感じだったのに、一人だけ勝手なことをしている！

指示が通らないのには、いくつかの原因が考えられます。

- ・誰に対して言っているのかわからない。
- ・自分に対して言われていると思っていない。
- ・他のことに気を取られて、話し手に注意が向いていない。
- ・周囲の雑音と声とがゴチャゴチャになって、聞き取れない。
- ・話の中に複数の内容が盛り込まれているため、全ての内容を聞き取ることができなかった。

どうしてこのようなことが起こるのでしょう。

- ・方向性、関係性を把握するのが苦手。
- ・ちょっとしたことで注意散漫になってしまう。
- ・様々な音の中から必要なものを選択して聞き分けることが難しい。
- ・短期記憶（ワーキングメモリー）の弱さ。

これはあくまでも原因の一部ですが、このようなケースには、次のような手立てが考えられます。



#### 個別に働きかける

「さん」と呼名するだけでも、その人の意識を向けやすくなります。

できれば近くで働きかけるほうが、より伝わりやすいでしょう。

#### 一文を短く、明瞭な声で、はっきりと話す

だらだらとした長い文章よりも、「は です」「\*\*をしてください」と内容ごとに文を短く区切ると分かりやすくなります。複数の内容があるときには「1番は です」「2番は です」と番号をつけると、より明確になるでしょう。

#### 重要なこと、伝えたいことをボードや紙に書いて視覚的に提示する

聞くだけでなく目で見ることによって、より情報が伝わりやすくなります。

## ケース2

個別に話しかけたけど、話の意図はちゃんと伝わっているのかなあ？

### 何となく…では、伝わらない

話し言葉の場合、内容だけでなく、相手の表情や声のトーンなどでも、話し手の意図が異なることがあります。発達障害の人の中には、これらの微妙なニュアンスの違いを読み取ることが難しく、字義どおりに受け取ってしまうため、話し手の真意が伝わらないケースも起こります。



曖昧な言い方や、比喩を用いた表現もわかりにくいことがあります。

「してほしいんだけど…」のような言い方でなく、「のときはしてくださいね」と、伝えたい内容を明確にした表現の方がはっきり意図が伝わります。

また、日本語の会話の中では、よく、主語を省いたり、内容を省略して話すことがあります。文脈の中で相手の意図を読み取らなければならないため、すれ違いが起こったりすることもあります。



大切な用件は、紙などに書いて、そのメモを見せながら伝えたり、メールやFAXを活用して後で読み返すことができるように工夫したりすると、確実に伝えることができます。

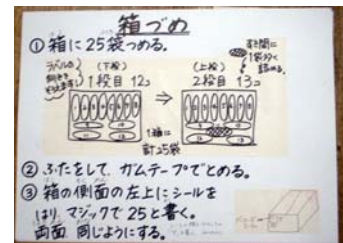
## ケース3

作業の時、何回説明しても間違えるのよね…。作業途中で、急に立ち上がることもあるし…。

### 作業等においても、視覚的な手がかりが有効です

口頭で何回も説明するよりも、図や写真入りの手順書があれば一目瞭然でしょう。

また、単純な作業でも、見た目でパッと分かるように枠取りしたものや、個数を確実に数えられるような補助具があれば、より間違いが少なくなります。



手順書の例

個数を数えるための補助具の例



逆に、視覚的な情報が入りやすいために、周囲に余計な刺激があると、集中が途切れたり、興味関心のあ  
る物の方に意識が向いてしまうこともあります。

ついたてを使って余計な物が目に入らないようにする、必要のない道具は所定の  
位置に片付けておく、道具の棚にカーテンなどをして見えないようにするなど、ち  
ょっとした配慮をすることで、落ち着いて作業できるようになるでしょう。



道具は同じ物を揃えて見出しをつけておく、決まったところにいつも置く  
ようにする、机の上に要らない物を置かないなど、整理整頓を心がけるだけ  
でも作業がスムーズになり、一つ一つ指示しなくても、自立的に動くことが  
できるようになる場合も多いのです。



#### ケース4

ちょっと予定を変更しただけなのに、急に様子が変わっちゃって…。  
そわそわしたり、突然「わー」と大声を出したりするのよ…。

#### 見えないものをとらえることは難しい

今現在の時刻を時計で見ることはできても、ずっと連続した「時間の流れ」という目に見えないものをと  
らえることは、とても難しいことです。まして「予定」など、未知の事柄については不安でいっぱいです。

自分の中で「今日はこんな流れで過ごすんだ」と納得して安心していたのに、それが突然変更されると、  
急に不安に感じられることもあるのです。

私たちも、見知らぬところへ旅行に行き、集合時間も行き先も行動予定も分からない…と告げられると  
不安になるでしょう。発達障害の方にとって、たとえちょっとした変更であっても、先の見通しが持てない  
ということは大きな不安であり、それがもとで、イライラやパニックを起こしたりすることもあるのです。



#### スケジュールを視覚的に知らせておく

その日のスケジュールや活動の流れについては、紙に書いたり、カードを使ったりして  
知らせると見通しを持つことができます。

一ヶ月の予定などを文字や絵入りで示し、掲示しておくことも一つ  
の方法です。特に行事など、日頃と異なることがある場合、いつ、何  
があるのかという見通しを持つことで、落ち着いて取り組むことがで  
きるケースが多いようです。

行事のときや外に出かけたときなど、携帯用のスケジュールカード  
を用意するとスムーズに行動できる場合もあります。自分がどのよう  
に動けばよいかという見通しを持つことで安心できるのです。



#### 「予定」は変わるもの

人によっては、こだわりが強く、変更をスムーズに受け入れられない場合もあるでしょう。

しかし、予定はあくまでも予定であり、変わることもあります。日頃から「変更になっても大丈夫だよ」という経験を積むと同時に、何がどう変わったのかがきちんとわかるように、色ペンで示したり、カードを差し替えたりするなど目に見える形で知らせるようになるとよいでしょう。

## 見える形で、時間の流れを知らせる

時刻が分かって、それがあとどのくらいの時間なのか…ということは感覚的につかみにくいものです。「時間」を色や光で量的に示すタイムエイドを使うことで、次の行動に移るまでの時間を視覚的にとらえたり、タイマーやアラームなどを有効に活用することで活動に区切りをつけることができます。



様々なタイムエイド

(点滅する光や色板が徐々に減っていくことで、時間の経過を視覚的に知らせるタイプです。)

## ケース5

会議の議事録、「今日は君の順番だから、よろしく」と言って手渡したのに、結局何も書いていなかった。

### 柔軟な発想で対応を

会議の議事録のように、話している内容を簡潔にまとめて、しかも話を聞きながら筆記するということが苦手としている人もいます。このような場合、その場で無理に書き留めなくても、ボイスレコーダーなどを使って録音しておき、あとでゆっくり記録するという方法もあります。

LD(学習障害)の方の中には、話の内容や意味は解るけれど、書字につまづきがある人もいます。それは脳機能の障害によるもので、単に字が下手だとか書くのが苦手というレベルの問題ではないのです。字形がゆがんで見える、罫線の中にまっすぐ書けない、黒板からノートに視線を動かしたときにどこに書いてよいかわからない…など人によって異なりますが、本人の努力だけで治るものでもなく、けっして怠けているわけでもないのです。そのようなときには、無理に手書きを強いるのではなく、ワープロを用いるというのも、一つの手段です。



### 苦手さは補助具や代替手段で補って、得意なことを活かして!

LD(学習障害)には、さまざまなケースが見られます。読みにつまづきのある人、書くことにつまづきのある人、計算につまづきのある人、計算はできるが文章題の内容を読み取るのが難しい人…。苦手さばかりに目を向けると「自分はこんなに頑張っているのに、どうしてできないんだろう」と諦めや自己喪失に陥ってしまうこともあります。

つまづきのある部分、難しい部分では補助具などを用いたり、ワープロや電卓などの機器を使ったりすることも認めてもよいのではないのでしょうか。苦手さを補い、その人が得意とする部分を十分に伸ばしていくような手立てを一緒に考えていくことも大切だと思います。

## 3. おわりに

ここに挙げたケースは、ほんの一部でしかありません。発達障害の方は、これ以外にも様々な点で生きづらさを感じたり、困り感を抱えたりしていることでしょう。もっと深刻な悩みを持っている方も大勢いらっしゃると思います。今回「発達障害」という見出しをつけていますが、ここで挙げた幾つかのキーワード(「視覚的提示を効果的に使って」「わかりやすく」「明確な言葉かけを」など)は、発達障害の方々に対してだけでなく、私たちの生活の中でも活かされるものではないでしょうか。互いにわかり合えるよう配慮し、工夫を重ねていくこと、一人一人がそれを意識することで、みんなが暮らしやすい環境が整ってくるのだと考えます。

<参考文献>

- ・「発達障害のある子の困り感に寄り添う支援」 佐藤 暁 著 学習研究社（学研）
- ・「発達障害の早期発見、早期支援のガイドブック」 日本発達障害ネットワーク 編
- ・「発達障がいのある青少年を支援する指導者のガイドブック」  
財団法人 ボーイスカウト日本連盟 青少年元気サポート事業
- ・「自閉症や知的障害を持つ人とのコミュニケーションのための10のアイデア」  
坂井 聡 著 エンパワメント研究所
- ・「ココロとカラダ ほぐしあそび」 二宮 信一 著 学習研究社（学研）
- ・「自閉症の人たちを支援するということ - TEACCH プログラム新世紀へ」 朝日新聞厚生文化事業団

<用語ひとくち解説>

わかりにくい用語について、すこしだけ解説します。

発達障害とは？

日本では、平成17年（2005年）4月に『発達障害者支援法』が定められ、その中で『「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であって、その症状が通常低年齢において発現するもの』と定義されています。

学習障害：LD（Learning Disabilities）

基本的には全般的な知的発達に遅れはありませんが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を示すものです。学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されますが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接的な原因となるものではありません。

注意欠陥多動性障害（ADHD）

年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び/又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものであります。また、7歳以前に現れ、その状態が継続し、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定されます。

高機能自閉症

高機能自閉症とは、3歳までに現れ、他人との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものをいいます。また、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定されます。

アスペルガー症候群

知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうち言葉の遅れを伴わないもの。なお高機能自閉症やアスペルガー症候群は、広汎性発達障害に分類されるものと示されています。

<公的な相談機関>

北九州市立発達障害者支援センター「つばさ」（総合療育センター内）TEL/FAX 093(922)5523

北九州市立特別支援教育相談センター TEL 093(921)2230 FAX 093(923)3010

\*特別支援学校でも教育相談や巡回相談を行っています。

北九州市立小倉北特別支援学校 TEL 093(592)2103 FAX 093(592)2104

## 歯科治療における自閉症患者さんへの視覚支援を用いた事例

福岡歯科大学成長発達歯学講座  
障害者歯科学分野 加藤 喜久

### はじめに

大人でも強い不安を感じる歯科治療において、コミュニケーションをとることが苦手な自閉症患者さんは、強い不安のために混乱し、時にはパニックになり、治療をすることが難しい場合もあります。

知的障害や自閉性障害のある方とのコミュニケーションでは、目で見て分かりやすい素材（文字、シンボル、イラスト、写真、実物）などを用いた視覚支援が理解しやすいのではないかとされています。

この視覚支援を導入した自閉症患者さんの歯科治療を紹介します。

### 視覚支援について

視覚支援は、知的障害や自閉性障害のある方が不安や混乱なく予定通りに行動できるようにするために情報を提示する方法です。

ABA（応用行動分析；applied behavior analysis）、PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム；picture exchange communication system）、TEACCH（自閉性障害および関連するコミュニケーション障害の小児のための治療と教育；treatment and education of autistic and related communication-handicapped children）プログラムでは、言葉を補うコミュニケーション手段として応用されています。

視覚支援では、場所や空間の持つ意味、予定などを視覚的に分かりやすく工夫すること、構造化することが大切とされています。つまり、「周囲で何が起きているのか、そして彼らの一人ひとりの能力に合わせて何をすればよいのかを分かりやすく提示する方法」です。構造化には次の3つがあります。

- a 物理的構造化：生活や学習の場で、物の配置を工夫して場所や場面の意味を視覚的にわかりやすくする方法。（例 学習の場所では、いつも学習だけをし、遊びとは共用しない）
- b スケジュールの構造化：予定されているスケジュールを図や表にして作成して示す方法。
- c ワークシステム：作業の内容、量、時間と、それがいつ終わり、そのあと何をするのかを具体的に示す方法。

## 歯科治療における視覚支援の実際

まず、本人がどのような方法に慣れているのかを知ることが必要です。通っている学校や施設、養育者によって支援の方法は、違っていることが多いと思います。最も慣れている方法に応じて素材を準備し、興味を持ってくれるよう使い方を工夫します。患者さんによっては、お母さんが前日に来られて院内の様子（受付や廊下、エレベータなど）や道順、治療ユニット、主治医の写真を撮影し、スムーズに診療室まで来られるための手がかりにすることもあります。

診療室については、落ち着ける環境となるよう、個室の準備やカーテンで仕切りをするなどの工夫をしています。診療前や診療中に、治療や口腔清掃の手順を視覚的素材（ジグ）で示します。素材としては、「実物、写真、イラスト、文字」の順に抽象的になるため、患者さんが最も意味を理解しやすい物を選ぶ必要があります。写真では、景色や人物など目的以外の物が写り込んでいると混乱を招くおそれがあるため、余分な情報は排除する必要があります。

自閉症の方には、器具、絵カードや写真などを使用する順番に並べ、一つ終わるごとに取り除いていく方法がよく用いられます（スケジュールの構造化）。また、必要な場合には何をどれくらい行って終わったら何をするのか（ワークシステム）を示すようにします。

### 実例1（Kさん 15歳 男性）

自閉症の患者さんです。発語はありません。家庭では、お母さんが一日のスケジュールを文字で記入したメモ用紙を昔から使われているとのことでした。

お母さんとの話し合いで、具体物と文字を用いた視覚支援をしていくこととなりました。実際に使う道具を順番に並べ、その文字と対をなすようにスケジュールを書いた紙を用います。Kさんは、一つ一つの項目をクリアする度に起き上がりうがいをし、道具を乗せた

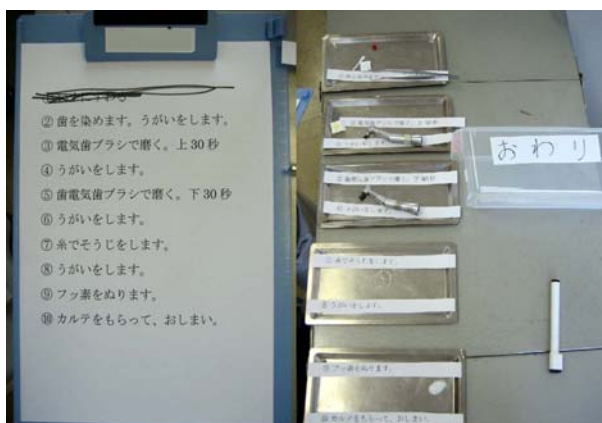


写真1

トレーをお母さんに隣の机に持って行くよう手渡しして、マジックで項目を消していきます。終了した項目の紙は、「終わり」と書いた箱の中に捨てていきます（写真1）。

彼の場合、この一項目がある程度長くなっても耐えられるようで、右下奥歯の虫歯の治療も過去にこの方法で行うことができました。



## 実例2 (Dさん 16歳 男性)

自閉症の患者さんです。コミュニケーションと言えるような会話はありません。

彼の場合ホワイトボードに貼り付けた器具の図と、数字の書いたマグネットを用いて行います(写真2)。数字のマグネットは回数を現し、1個あたりゆっくり5秒間だけその絵の器具を使うことを約束しています。



写真2

また、器具を使う場所は顔を書いたカードで本人が確認しながら行っています(写真3)。



写真3

幸い、彼にも大きな処置はないため、定期的な検診で機械を用いた歯磨きを行う際に視覚支援を行っています。このお二人は、視覚支援をうまく受け入れている実例だと思います。

しかし、実際にはこのような手法での診療をすべての方が受けているわけではありません。実例1のように、日常的にこの方法に慣れている方であれば難しくはありませんが、当科にいられて初めて視覚支援を経験する場合は、処置に入るまでに期間を要します。

実例2の方は、ここまで至るのに月1度の来院で2年近くかかっています。このように期間や通院に付き添える時間に余裕がなければ困難な場合もあります。また、ひどい虫歯や親知らずの抜歯、神経を取るような処置や、急性症状を伴い早急に処置が必要な時は、薬物を使った行動調整(笑気ガスや鎮静剤の注射、全身麻酔)を行います。

## おわりに

歯科疾患は、例え全身麻酔で一気に治療を終えたとしても、それで終わりではありません。治療した歯は、その後、しっかり毎日歯磨きしていかなければ必ず再治療が必要となってしまうと思います。私の個人的な意見としては、治療後の歯磨きの習慣付けやスキルアップ指導に応用できたら良いなと思い、視覚支援を用いています。

## 引用文献

1) 村上旬平、森崎市次郎

Special Needs Dentistry 第1版.医歯薬出版.東京.p235-238.2009

障害別支援

# 「精神障害」

## 「浅野社会復帰センター」におけるIT支援について

北九州市立浅野社会復帰センター  
センター長 元重 義則

### 実施場所

社会福祉法人 北九州精神保健福祉事業協会 北九州市立浅野社会復帰センター

### 代表者名

もとしげ よしのり  
元重 義則 (センター長)

みよし ゆきの  
三吉 雪乃 (担当者・支援員)

### 所在地・連絡先

《住所》

〒802-0001

北九州市小倉北区浅野2丁目16-38

《連絡先》

・電話：093-513-2570

・FAX：093-513-2571

《ホームページ》

<http://www.asanocenter.jp>

### 内容

《概要》

地域活動支援センター「ひこうき雲」の行事の一つとして実施しています。

講義形式ではなく、参加者の皆さんがそれぞれ興味のあること、練習したいことを行います。

(サポーターとして「ひこうき雲」のスタッフが付きます)

《活動例》

- ・インターネット閲覧
- ・Word 練習(参考書も数冊用意あり)
- ・Excel 練習(参考書も数冊用意あり)
- ・パソコンを利用したゲーム

《対象者》

精神科医療機関を利用されている方

「パソコンを触ったことがない」「インターネットを使ってみたい」「自分のペースで練習したい」など、習うより慣れたい人向き。

日時

毎月2回(現在は第1・第4水曜日)

13:30~14:30

14:30~15:30

の2部構成





### **参加について**

#### 《事前に必要なこと》

- ・「ひこうき雲」への登録
- ・上記、 のうちで参加する時間を予約

#### 《費用》

- ・1時間につき 100 円
- ・印刷は1枚につき 10 円

### **その他**

- ・日程は毎月の「あさのだより」(広報誌)に掲載しています。
- ・参加については定期的である必要はなく、月1回などでも可能です。

「コミュニケーション支援・

IT支援を行なっている機関、団体」

# 北九州市立障害者福祉会館における IT 支援について

財団法人北九州市身体障害者福祉協会  
事務局長 藤岡 保

## 1 障害者福祉会館とは

身体障害者社会参加支援施設の中の身体障害者福祉センターB型として、創作的活動又は生産活動の機会の提供、社会との交流の促進、ボランティアの養成その他身体障害者が自立した日常生活及び社会生活を営むために必要な事業を行う施設です。

## 2 設置数

市内に2箇所設置

## 3 設置住所

東部障害者福祉会館

(〒804-0067 戸畑区汐井町1-6 ウェルとばた6F TEL 883-5552 FAX 883-5553)

西部障害者福祉会館

(〒806-0066 八幡西区若葉1-8-1 TEL 645-1210 FAX 645-1601)

## 4 管理運営団体

財団法人 北九州市身体障害者福祉協会

## 5 会館の利用対象者

障害者及び障害福祉の増進に係る活動に参加する者

## 6 障害者向けの IT 講座

平成21年度の事業として、下記の IT に関する講座を東部障害者福祉会館および西部障害福祉会館にて行ないました。

(講座名)	(会場)	(定員)	(回数)	(期間)
・65歳からのやさしいパソコン入門講座	東部	8名	4回	5月～6月
・デジタルカメラ講座	東部	8名	10回	9月～10月
・ワード活用講座	東部	8名	4回	11月
・初めてのパソコン教室	西部	10名	5回	7月～8月
・ワード便利技教室	西部	10名	3回	9月
・デジタルカメラ活用術入門教室	西部	13名	3回	11月
・ブログ入門教室	西部	10名	3回	12月

## 重度障害者意思伝達装置（他の支援機器も含む）の導入支援

### 重度障害者意思伝達装置（他の支援機器も含む）の導入支援

障害福祉センターでは、神経難病患者等に対して、コミュニケーションに関する専門相談を行っており、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がチームを組んで相談支援を行なっています。

ここでは、補装具の給付対象品目である「重度障害者意思伝達装置」の導入支援について紹介します。

「重度障害者意思伝達装置」とは、疾病により、発声ができなくなり、体も動かなくなって筆談もできない方のコミュニケーションを確保する手段の一つです。障害福祉センターでは、相談、判定、フォローアップ等を行なっています。

#### 困りごと



##### （本人、家族）

- ・コミュニケーション手段を確保したい
- ・疾病が進行し、会話が難しくなった
- ・慣れた人しか意思が伝えられない など

##### （支援者）医療機関、居宅事業所等

- ・コミュニケーション手段について一緒に検討してほしい
- ・スイッチの検討に困っている
- ・機器を借りて試してみたい など

#### 相談



（相談窓口）各区役所生活支援課 保健福祉相談係 or 障害福祉センター

お気軽にご相談ください

一緒に考えていきましょう

#### 訪問支援



障害福祉センターのり八専門職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）がチームを組んで訪問支援を行います。

##### （支援内容）

- ・機器の検討・・・重度障害者用意思伝達装置の機種選定、導入時期の検討など
- ・スイッチの検討・・・適切な機種の選定など
- ・機器の貸し出し・・・一定期間の試し利用に機器を貸し出します
- ・フォローアップ・・・機器が継続利用できるような支援を行ないます
- ・給付判定等・・・訪問等による判定を行います など

#### 関係機関との連携



医療機関や関係機関と連携をし、機器が継続して利用でき、活用の幅を広げていけるように、関係機関と連携し協同して支援を進めていきます。

## 制度の紹介（一部抜粋）

### 重度障害者意思伝達装置

福祉制度	補装具費の支給 * 更生相談所の判定必要
対象者	両上下肢の機能全廃及び言語機能を喪失した者であって、コミュニケーション手段として必要があると認められる方
給付限度額	450,000 円
耐用年数	5 年



(例)「伝の心」

### 携帯用会話補助装置

福祉制度	日常生活用具の給付
対象者	音声機能若しくは言語機能障害者又は肢体不自由者であって、発声・発語に著しい障害を有する者
給付限度額	98,800 円
耐用年数	5 年



(例)「トーキングエイド」

### 情報・通信支援用具

福祉制度	日常生活用具の給付
対象者	視覚障害又は上肢障害 2 級以上(原則として現に情報機器 ( P C ) を所有していること)
給付限度額	100,000 円
耐用年数	6 年



(例)スイッチ関連等

利用者負担金・・・原則、1割負担(所得状況により負担上限額設定あり)

申し込み・・・各区役所 生活支援課 保健福祉相談係

### 関係者への研修の紹介

医療機関、福祉関係者等に対して、一般研修と専門研修を行っています。

**一般研修**・・・医療機関、福祉関係者等に対して、コミュニケーション障害をもたらす難病等についての理解とコミュニケーション支援の理解を深めてもらうことを目的に1回/年実施しています。どなたでも参加可能です。

**専門研修**・・・難病患者等をサポートしている医療機関等に対して、コミュニケーション機器の適合技術研修を実施し、スキルアップを図っています。

お気軽にご参加ください

参加ご希望の方は、障害福祉センター(522-8724)までお問い合わせください

文責：障害福祉センター 久保 かおり

参考資料

難病患者等コミュニケーション支援研修会 開催実績一覧

年度	日時	内容(テーマ)	講師(職種)	参加者数
14	3月19日(水) 13:30~17:00 アシスト講堂	コミュニケーション支援技術の基本 コミュニケーション及び生活支援機器の現状	リハ工学士	70
		障害福祉センターのコミュニケーション支援活動の現状	障害福祉センターST	
15	12月15日(火) 13:30~16:00 アシスト講堂	難病患者の生活支援について	訪問看護ステーション管理者	199
		障害福祉センターの機器支援に対する活動紹介	障害福祉センターST	
16	2月5日(土) 14:00~16:00 ウェルとばた中ホール	往診医からみた神経難病の在宅療養上の問題点 - ALSの患者を中心に -	医師	217
		障害福祉センターの難病患者等のコミュニケーション支援事業の紹介	障害福祉センターST	
17	11月26日(土) 14:00~16:00 ウェルとばた 多目的ホール	難病患者の在宅支援 - 意思伝達の視点から - 意思伝達の視点から -	医師	108
		難病患者のコミュニケーション支援について - 事例から -	医療機関ST 医療機関OT	
18	11月14日(火) 18:30~20:30 ウェルとばた 多目的ホール	難病患者の在宅支援の制度について	医療機関MSW	95
		難病患者の在宅支援について - 事例から -	訪問看護ステーション管理者	
		難病患者のコミュニケーション支援について	障害福祉センターST	
19	2月19日(火) 18:30~20:30 ウェルとばた 多目的ホール	在宅の難病患者の生活支援とコミュニケーション支援について - マネージャーの立場から -	居宅介護支援事業所 CM(Ns)	85
		実習「文字盤、透明文字盤の使い方」について	障害福祉センターST	
20	2月24日(火) 18:30~20:30 ウェルとばた 多目的ホール	在宅の難病患者の生活支援とコミュニケーション支援について - マネージャーの立場から -	ヘルパー事業所サービス管理責任者	70
		コミュニケーション支援機器に関する情報提供	障害福祉センターST	
		グループディスカッション「難病患者の支援に関する情報交換」		
21	2月10日(水) 18:30~20:30 ウェルとばた 多目的ホール	医療機関でのコミュニケーション支援の取り組み	医療機関OT	71
		グループディスカッション		

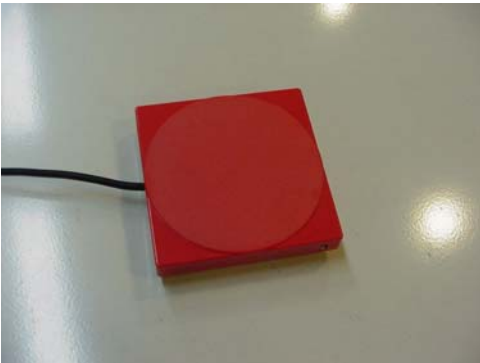
講師の個人情報の表示は控えさせていただきます

参考資料

**機器の紹介（一部抜粋）**

スイッチ関連

**機械スイッチ**



角型スイッチ

- ・ 押して利用
- ・ 弱い力でも入力できます

**センサースイッチ**



ピエゾセンサースイッチ

- ・ 微弱な筋肉の動きを皮膚のたわみとして感知します。
- ・ 微弱な随意運動でも入力できます



ジェリビーンスイッチ+ユニバーサルアーム

- ・ 押して利用
- ・ アームの関節が自由に動くので様々な姿勢での利用が可能です

パソコン設置機器



アシスタンド

- ・ ベッドで寝た状態でもパソコン画面を見ることができます

意思伝達装置とスイッチ、周辺機器





## 福祉用具プラザ北九州におけるコミュニケーション・IT 支援について

福祉用具プラザ北九州

作業療法士 櫻木 美穂子

福祉用具プラザ北九州（以下プラザ）は小倉北区馬借の「北九州市総合保健福祉センター」の1階にあり、正式名称を「北九州市立介護実習・普及センター」と言います。

福祉用具プラザ北九州には、約850点の車いすや介護用ベッド、排泄・入浴関連などの福祉用具や自助具を展示しています。その中でコミュニケーション関連用具はおよそ100点あり、視覚・聴覚・言語などそれぞれの障害やお悩みにあった用具を紹介したり、実際に試していただいたりしています。また必要に応じて自宅や施設に訪問し、福祉用具の適合支援やその方に合った補助具（パソコン台やスイッチ固定台）の製作も行っています。



入力機器・コミュニケーション機器



特殊マウス・おもちゃ等

その他プラザでは、市民の方からの福祉用具や介護に関する質問や相談に介護福祉士や理学・作業療法士などの専門スタッフが対応しています。

そして福祉用具の適合や選定のアドバイスをしたり、利用できるサービスの紹介を行っています。

また必要に応じて自宅や施設に訪問し、福祉用具の適合支援やその方に合った自助具の製作を行っています。

毎月「介護講座」や「自助具ワークショップ」などの講座も行っています。

その他の事業として、尿漏れや頻尿、尿失禁やおむつの使い方・選び方など、排泄に関することでお悩みの方や、介護されているご家族のための排泄相談窓口を設置して、専門の相談員が対応しています。





プラザに寄せられた相談の中でコミュニケーションに関する事例を一つ紹介します。

独居や自宅に一人でいる時間が多い方の緊急時の連絡や、家族・サービス機関への連絡の為に電話機を利用したいというものです。そこでNTTの福祉電話「シルバーホンふれあいS」を紹介し試用体験を行いました。この「シルバーホンふれあいS」は、オプションとして制御スイッチと呼気スイッチを利用することができ、受話器を取らなくても話ができるハンズフリー機能と、よくかける相手を短縮ダイヤルに登録しておき、スキャン機能でかけたい相手にすぐ電話をかける事が出来る機能があり、体の不自由な方や視覚の障害の方にも使いやすいものです。

この電話機を導入することで家族や友人との連絡やおしゃべりが自由にできるようになったり、緊急時の連絡を家族にする事が出来るようになり、本人・ご家族の不安が解消されました。



この他福祉用具プラザ北九州にはコミュニケーション以外の様々なご相談が寄せられています。相談の中にはもちろん実現できないこともあります。他の機関やサービスとの連携を図りながら、相談者のニーズに出来るだけ答えられるよう日々心がけています。

#### その他に展示している用品



視覚障害者福祉用具



屋内信号装置



伝の心(左)とレッツチャット(右)



ボガ・スイッチ類

福祉用具プラザ北九州(北九州市立介護実習・普及センター)

〒802-8560 北九州市小倉北区馬借1丁目7-1

093-522-8721 fax 093-522-8771

## 北九州市障害者パソコンサポーター養成・派遣事業

社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会

〒804-0067

北九州市戸畑区汐井町1-6 ウェルとばた6階

担当者 森 真司(もり しんじ)

電話 093-882-6770

FAX 093-882-6771

～心をつなぐ 人と人～

当協会は市民有志による、障害福祉を中心としたボランティア活動の推進機関です。

- ・ボランティア活動の推進
  - ・誰もが住みよい福祉のまちづくり運動
  - ・障害のある人のICT(情報通信技術)利用・活用支援
- を柱に、活動しています。

### 北九州市障害者パソコンサポーター養成・派遣事業(北九州市からの委託事業)

「視覚障害があるけど、専用のパソコンが必要なの?」「マウスを使っただけのパソコン操作ができない」「パソコンを利用してみたいけど、どうしたらいいかわからない!」といったお困り事に「パソコンサポーター」がお手伝いをします。まずは、コーディネーターがお話をうかがいますので、お気軽にご相談ください。

対象:北九州市に在住の、障害のある人。

障害のある人の参加している講座や勉強会で、補助講師を必要とする団体

内容:障害状況に応じた機器の提案や、相談機関の紹介

機器の設定において、「障害があるために」できないことへの支援

パソコンの基本的な使い方の支援(文字が打てるようになりたい、等)

利用時間:原則として年末年始・お盆を除く月～土曜日の10時～17時

毎週水曜日に事務局に、相談員(登録サポーターで交代)を配置

申込方法:電話、FAX、郵便、電子メール

「パソコンサポーター」とは、主に養成講座を修了し、事務局に登録している個人です。仕事や家事等の空き時間をサポートに使うことができる人であって、専門家(講師やインストラクター)ではありません。

その他

代理で電話をしてもらわなければ連絡が取れなかった人がメールを利用できるようになった。海外に住んでいる親戚や友人と気軽に連絡ができるようになった。サポーターと一緒に学ぶことで、ステップアップできる講座に通う気持ちになった。などの、効果がありました。

## 第8回障害者パソコンサポーター養成講座カリキュラム（障害福祉コース）

No	科目名	目的 概要
1	障害とは何か	<b>障害とは何か正しく理解する。</b> 4つのバリア（障害）とは何か、障害は個人によって違うこと、特別扱いと配慮の違い、共感的理解とは何か。
2	言語障害について	<b>言語障害とは何か正しく理解する。</b> 日常生活での配慮やパソコンサポート上で気をつけることなど専門家の話を聞く。
3	精神障害について	<b>精神障害とは何か正しく理解する。</b> 日常生活での配慮やパソコンサポート上で気をつけることなど専門家の話を聞く。
4	肢体不自由について	<b>肢体不自由とは何か正しく理解する。</b> 日常生活での配慮やパソコンサポート上で気をつけること等、専門家の話を聞く。
5	視覚に障害のある人とパソコン	<b>コミュニケーション機器としてのパソコンについて、また、今後のサポート上で気をつけることなどを理解する。</b> 視覚に障害のある方が、コミュニケーションや情報収集のために、どのようにパソコンや補助機器を利用しているか等、当事者からの話を聞く。
6	視覚障害について2	<b>視覚障害とは何か正しく理解する。</b> 日常生活での配慮やパソコンサポート上で気をつけること等、専門家の話を聞く。また視覚障害の疑似体験やガイドの方法を学ぶことで、今後のサポートに生かす。
7	知的障害・発達障害について	<b>知的障害・発達障害とは何か正しく理解する。</b> 日常生活での配慮やパソコンサポート上で気をつけること等、専門家の話を聞く。
8	コミュニケーション実習（知的障害）	<b>知的障害・発達障害のある人とのコミュニケーション</b> 知的障害・発達障害のある人と実際に会話をしながら、パソコンサポート上の配慮やコミュニケーションの手法について学ぶ。
9	聴覚に障害のある人とパソコン1	聴覚に障害があり、筆談（要約筆記等）をコミュニケーション手段としている人が、日常生活でどのような情報が必要か、どのようにパソコンを利用しているか等当事者からの話を聞く。
10	聴覚に障害のある人とパソコン2	聴覚に障害があり、手話をコミュニケーション手段としている人が、日常生活でどのような情報が必要か、どのようにパソコンを利用しているか等当事者からの話を聞く。
11	コミュニケーション実習（聴覚障害）	<b>聴覚障害のある人とのコミュニケーション</b> 聴覚障害の疑似体験をしながらパソコン操作をおこなうことで、パソコンサポート上の配慮やコミュニケーションの手法について学ぶ。

# 障害者へのコミュニケーション支援・IT支援を行っている社会資源

九州工業大学 大学院生命体工学研究科 和田研究室

担当者：和田 親宗(わだちかむね)

〒808-0196 北九州市若松区ひびきの2-4

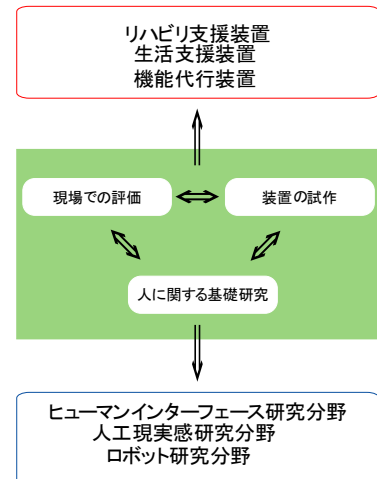
電話/Fax：093-695-6048

E-mail: wada@life.kyutech.ac.jp

URL <http://www.life.kyutech.ac.jp/~wada>

## 研究室の概要

ヒトの感覚特性・運動機能を調べることで、ヒトの持っている様々な機能を工学的に代行する方法・装置の開発研究を行っている研究室です。「ものづくり」が研究の基礎となっています。研究成果を利用して、近い将来、障害者や高齢者の「できないこと」・「やりづらいこと」を支援する装置を作りたいと思っています。



## 研究内容

研究の進捗状況に応じて内容が変わりますので、最新の内容については上記URLをご覧くださいと思います。2010年1月の時点では、視覚障害者の歩行誘導に関する研究、盲ろう者のコミュニケーション支援に関する研究、片麻痺者の歩行リハビリを支援する方法に関する研究、などを行っています。いずれも機能しない感覚（例えば、全盲の場合には視覚）を他の感覚（例えば、触覚）によって代行させることで必要な情報（例えば、目的地の方向）を伝える方法を探っています。なお、研究成果の一部については、西日本国際福祉機器展においてご覧いただいております。

視覚障害者のための  
環境情報呈示方法の研究

視覚聴覚重複障害者のための  
コミュニケーション支援方法の研究

高齢者・片麻痺者のための  
運動機能支援方法に関する研究

## **コミュニケーション支援やIT支援に対する協力**

大学の研究室という立場上、将来役立つであろう技術の研究開発が主です。そのため、残念ながら、研究成果がすぐに皆さんの役に立つことはないかもしれません。しかし、皆さんがお持ちの問題を解決するために、もし何かを作りたいとお考えになった場合、こちらが技術的なお手伝いをすることはできると思います。仮に私の所で手に負えない場合には、大学のネットワークを通して専門家を紹介することも可能です。このように、いろいろな面で私や研究室を「有効に活用」していただきたいと思います。お待ちしております。

## **最後に**

この文章やホームページだけでは研究内容がわからず、私の研究室がどのように協力できるかを想像しにくいのではないかと思います。研究室の見学はいつでもどなたでも大歓迎です。また、研究成果の体験もできますので、是非お越し下さい。お待ちしております。

## ee-club(北九州に AAC と AT を広める会)の活動について

北九州市立八幡西特別支援学校  
本田 誠三

### 1 はじめに

ee-club は、肢体不自由養護学校(現在は特別支援学校)の教員を中心に、平成17年4月に発足しました。現在では教員だけでなく、障害を持つ方に関わりのある、様々な方々が参加しています。

私たちは、障害があっても主体的にコミュニケーションし、選択・決定できる社会を実現することをめざしています。そのために、障害者とのコミュニケーション技法である AAC (Augmentative&Alternative Communication:拡大代替コミュニケーション)と、支援技術であるAT (Assistive Technology)の考え方と技術の普及・啓発を中心に、以下のような活動を行っています。

### 2 構成メンバー

- ・北九州市内特別支援学校教員(肢体不自由・知的)、小中学校教員、北九州市立療育センター職員(PT、OT、リハビリ工学士等)、福祉用具プラザ北九州、障害を持つお子さんをお持ちの保護者、障害を持つ方と関わりを持つ一般の方

### 3 会費等

- ・会員…年会費2000円  
(月例会参加費無料、また年度末には、年間の活動をまとめた冊子を無料配布予定)
- ・月例会のみの参加費…500円/1回
- ・メーリングリストは希望により無料で参加できます。

### 4 連携先

北九州市内特別支援学校、北九州工業高等専門学校(ロボコンサークル「あぼうた〜ず」他)、九州工業大学大学院(生命体工学研究科生体機能専攻 ヒューマンメカトロニクス講座)、福祉用具プラザ北九州、北九州市立総合療育センター他

### 5 活動内容

- ・子どもの主体的な「活動」「参加」を支援する技術や考え方の普及啓発
- ・AAC(拡大代替コミュニケーション)とAT(支援技術:アシスティブテクノロジー)の普及啓発
- ・上記に関わる情報収集と、教員、保護者、一般への情報提供
- ・個別のニーズに対応した、教材教具・支援機器の製作支援及び開発

#### <月例会>

- ・北九州特別支援学校・八幡西特別支援学校等を拠点に、毎回テーマを決めて月に1回程度開催。
- ・内容
  - ①市販のおもちゃや機器の改造  
(外部スイッチ取り付けなど)
  - ②PC 操作支援ソフト・ハード利用講習会  
(パワーポイントを使った教材作成、インテリキー、HeartyLadder 等)
  - ③支援機器、教材の作成会





(各種スイッチ、タイムエイド、ラッチ&タイマー、タスクウォッチ等)

④事例発表、情報交換

⑤事例相談会

(ニーズに応じたスイッチやソフトウェア、機器の紹介や試用)

⑥支援機器の活用や購入に関する情報提供

#### <普及啓発活動>

①年1回の「ee-club フォーラム」

(講演会、機器展示、ワークショップ等)

②Webサイトの運営

(<http://eeclub.news.coccan.jp/xoops/>)

③メーリングリスト(情報提供、情報交換)

④西日本国際福祉機器展展示

(一般向け啓発活動)

⑤市内特別支援学校校内研修会支援

(教材製作講習会企画運営、講師等)



#### <支援機器・教材開発>

・北九州工業高等専門学校との連携により、「EG-AssiT」と「おしゃべり秤」を開発しました。ここでは「EG-AssiT」の開発についてご紹介します。

「EG-AssiT」(時間認知支援装置)…タイムエイド機能とラッチ&タイマー機能を持つ機器

##### 【開発の流れ】

①機器の基本仕様決定…ee-club 例会及びメーリングリストでアイデアを集約

②試作…北九州高専で、プログラム開発及び回路・基盤・ケース等設計→プロトタイプ製作

③ee-club 例会にて、プロトタイプを元に意見交換→最終的な仕様決定

④第1次製作会開催(約40台)→北九州高専にて

⑤プログラム修正

⑥拡大表示装置(教室や体育館でもよく見える大きさに表示する装置)試作、試用

⑦第2次製作(製品化:約40台)→北九州高専で製作、福祉用具プラザ北九州で販売

⑧第3次製作(製品化:約50台)→MSテクノに委託製作、販売決定。22年1月販売開始



・その他「おしゃべり秤」(測定結果「正解」「足りない」「多い」等を音声とシンボルで伝えてくれる支援機器)も開発しました。現在市内の特別支援学校や地域活動センター等で試用評価中です。

## 6 お問い合わせ先(会員登録申込や例会・イベント等のお問い合わせ)

事務局

〒824-0057 行橋市宮の杜 62-7 (本田誠三)

ee-club(北九州に AAC と AT を広める会)事務局

TEL・FAX:0930-23-9591

e-mail:koko\_charlie@yahoo.co.jp

## 特定非営利活動法人 北九州市視覚障害者自立推進協会あいず

代表者名：野村 秀紀（理事長）

所在地：〒804 - 0084

北九州市戸畑区幸町6 - 7

電話 / FAX : 093 - 871 - 7711

URL : <http://www.aizu-k.com>

E - MAIL : [info@aizu-k.com](mailto:info@aizu-k.com)

視覚障害者の日常生活支援から就労支援まで幅広い活動をしています。

コミュニケーション支援、IT支援内容は、次の通りです。

### パソコンクラブ

あいずIT部会で毎月1回実施しています。あいずの会員向けですが、一般の方も参加できます。

視覚障害者の方が対象で、その都度テーマを決めて受講者を募集しています。

### 委託事業

パソコンだけでなく、携帯電話やプレクストークなど情報機器の使い方に関する講座や勉強会を年に数回実施しています。

### 「日商PC検定（文書作成）3級」受験対策事業

平成21年8～12月に朝日新聞厚生文化事業団の助成を得て、テキスト・問題集開発を行ない、26時間の対策講座を実施しました。受験者7名中6名の合格者を出しました。ここで得たノウハウを基に22年以降も継続的に対策講座を実施する予定です。

### 作業所あいず

・日常生活用具を始め、視覚障害者のコミュニケーション支援用具や情報通信支援機器の紹介、導入相談、販売、アフターフォローなどを当事者の視点から行なっています。

取扱種目としては、パソコンソフト、点字ディスプレイ、点字器、点字タイプライター、拡大読書器、DAISY規格の録音再生機はもちろん、盲人用体温計、体重計、時計、電磁調理器など視覚障害者の日常生活に必要なもの全般に及んでいます。

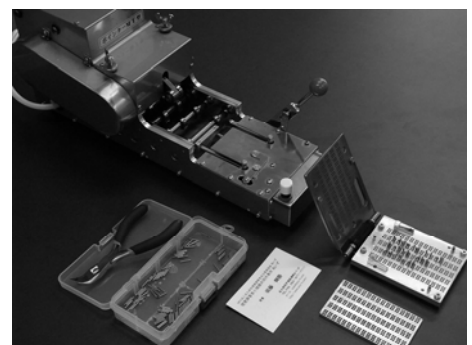
・視覚障害者による視覚障害者のためのメルマガ「イベントカレンダーいきいき」を毎週発行。購読者数：約100名（平成21年12月）。内容は、セミナー、講座の案内だけでなく、テレビ番組や買い物情報、コンサート情報など身近なものも多いです。

・通所者（視覚障害）には、点字やパソコンの指導を行なっています。また、外部に対しても講師を出張させています。

・開所時間：月～金曜日10時～15時



作業所あいず内風景



点字名刺印刷機



## 特定非営利活動法人 ふくおか視覚障害者雇用開発推進センター

代表者名：赤松 賢一（理事長）

所在地：〒807-0853

北九州市八幡西区鷹見台四丁目18番8号

電話/FAX：093-602-2545

E-Mail：[info@career-i.jp](mailto:info@career-i.jp)

視覚障害者の一般就労を支援する団体です。

平成19年7月に任意団体「視覚障害者の為の雇用開発研究会」として発足。

平成22年2月に「特定非営利活動法人ふくおか視覚障害者雇用開発推進センター」(NPO法人キャリアセンターあい)として法人化するための設立総会。視覚障害当事者団体(北九州市内の4団体から理事就任)を中心に、行政、職業訓練機関、教育機関、医療機関、障害福祉団体、企業等が協力し、視覚障害者の就労に関する調査研究、支援者育成、就労のための職業訓練、就労に関する情報提供・相談などの事業を行っています。

### これまでの主な活動

#### 1. 「視覚障害者雇用開発支援者研修」(平成20年2月～5月)

スクリーンリーダーをインストールしたパソコンがあれば目が見えなくてもパソコンを操作し、仕事ができることを体験的に知ってもらうための研修会。「アドバイスで名簿管理」、「画面なしでエクセル操作」、「ウェブアクセシビリティ」、「IT支援基礎講座」など。主な参加者は、歩行訓練士、福岡県労働局職員、北九州市職員、障害者職能校教職員、福岡県議会議員、障害者支援機関職員、ITサポーターなど。

2. 「視覚障害者の就労と可能性～視覚障害者を取り巻く雇用背景と新しい職域について～」をテーマに、平成20年6月29日(日)にウェルとばたにてシンポジウム実施。70名参加。

3. 福岡県との協働事業「視覚障害者のためのIT支援者育成講座」を実施。平成20年12月～平成21年3月。講師は、大学教授、歩行訓練師、実際に就労している当事者、眼科医、IT支援者、キャリアカウンセラーなど。全36時間。



視覚障害者のためのIT支援者育成講座

「資料」

## 障害のある人へのコミュニケーション支援に関するアンケート調査について

### 障害のある人へのコミュニケーション支援に関する関心度について

平成21年11月27日(金)から29日(日)の3日間、西日本総合展示場で開催された、西日本国際福祉機器展会場内において、来場者(福祉関係者、医療関係者等)に対し「障害のある人へのコミュニケーション支援」に関するアンケート調査を実施しました。

### アンケートの結果から見えるもの

アンケート調査の結果、アンケートにお答えいただいたほとんど全ての人が、障害のある人へのコミュニケーション支援に関心があるという結果となりました。そして、実際に障害のある人たちの支援に関わる中で、コミュニケーションについて困ったことがあったという割合もかなり高い結果となっています。(障害のある人へのコミュニケーション支援に関するアンケートの集計を参照)

その反面、それぞれでコミュニケーション支援に関する研修や勉強会を実施している割合はかなり低い結果となっています。

このことから、それぞれで困っている事はあるけれど、「どう解決したらいいかわからない」、「コミュニケーションの方法を知りたい」と多くの方が記述されているとおり、コミュニケーション支援に関しての関係者の連携・情報共有の必要性が求められている事がうかがえる結果となっていると思います。

### 障害のある人へのコミュニケーション支援に関するアンケートの集計

障害のある方のコミュニケーション支援に関心があるか？

職種 (総数)	医師・看護師 (7)	OT・PT・ST (38)	介護職 (27)	相談員・支援員 (26)	介護支援専門員 (11)	教員 (8)	ボランティア (5)	全体 (122)
ある	7	38	27	26	10	8	5	121
ない	0	0	0	0	1	0	0	1
パーセント	100%	100%	100%	100%	91%	100%	100%	99%

障害のある方と接した中でコミュニケーションについて困ったことはあるか？

職種 (総数)	医師・看護師 (7)	OT・PT・ST (38)	介護職 (27)	相談員・支援員 (26)	介護支援専門員 (11)	教員 (8)	ボランティア (5)	全体 (122)
ある	6	36	22	22	9	8	3	106
ない	0	2	3	4	2	0	2	13
無回答	1	0	2	0	0	0	0	3
パーセント	86%	95%	81%	85%	82%	100%	60%	87%

職場・事業所でコミュニケーション支援に関する研修会を開催しているか？

職種 (総数)	医師・看護師 (7)	OT・PT・ST (38)	介護職 (27)	相談員・支援員 (26)	介護支援専門員 (11)	教員 (8)	ボランティア (5)	全体 (122)
ある	0	6	11	6	4	3	4	34
ない	6	32	15	20	7	5	1	86
無回答	1	0	1	0	0	0	0	2
パーセント	0%	16%	41%	23%	36%	38%	80%	28%

支援者を対象としたコミュニケーション支援に関するアンケート

<職種・分野等>

(回答数122)

1. 職種を教えてください。

医師・看護師	7 ( 6 % )
OT・PT・ST	38 ( 31 % )
介護職	27 ( 22 % )
相談員・支援員など	26 ( 21 % )
介護支援専門員	11 ( 9 % )
教員	8 ( 7 % )
ボランティア	5 ( 4 % )

2. お勤め先は？

在宅福祉現場	60 ( 49 % )
入所福祉現場	17 ( 14 % )
医療現場	33 ( 27 % )
教育現場	12 ( 10 % )

3. 主に障害者関係、高齢者関係のどちらの関係者ですか？

障害者関係	50 ( 41 % )
高齢者関係	29 ( 24 % )
障害・高齢者関係両方	43 ( 35 % )

4. コミュニケーション支援の従事歴は？

1年以内	23 ( 19 % )
1年から5年以内	40 ( 33 % )
5年から10年以上	29 ( 24 % )
10年以上	30 ( 24 % )

<障害のある人とのコミュニケーションについてなど>

1. 障害のある方と接したことはありますか？

ある	122 ( 100 % )
ない	0 ( 0 % )

あると回答された方へ、それは業務上ですか？ボランティアですか？（複数回答）

業務上	122
ボランティア	74
その他	26

2. 障害のある方のコミュニケーション支援について関心はありますか？

ある	121 ( 99 % )
ない	1 ( 1 % )

あると回答された方へ、なぜ関心を持たれたのですか？（複数回答）

仕事（業務）の中で障害のあるかたと接したため	122
ボランティアで障害者ある方と接したため	65
テレビ等のメディアで影響を受け関心を持ったため	12

3. 障害のある方と接した中でコミュニケーションについて困ったことはありますか？

ある	106 (87%)
ない	13 (11%)
無回答	3 (2%)

あると回答された方へ、どのような場合に困りましたか？

( アンケート自由記述の欄の回答 )

4. 障害者へのコミュニケーション支援で、どんなことを知りたいですか？

( アンケート自由記述の欄の回答 )

5. あなたの職場(事業所)や地域でコミュニケーション支援に関する研修会を開催していますか？

開催している	34 (28%)
していない	86 (70%)
無回答	2 (2%)

あると回答された方へ、あなたはその研修会に参加されたことはありますか？

ある	27
ない	7

6. 最後に、あなたにとってコミュニケーションとは？

( アンケート自由記述の欄の回答 )

( アンケート自由記述の欄の回答 )

3. 障害のある方と接した中でコミュニケーションについて困ったことはありますか？

あると回答された方へ、どのような場合に困りましたか？

- ・言葉の理解ができずコミュニケーションがとれない。  
相手の持つコミュニケーション手段を持っていない。(その人にあったコミュニケーション方法)
- ・非言語コミュニケーションの理解。
- ・言葉の意味の受け取り方の違い。
- ・気持ちが理解してあげられなかった。コミュニケーションに時間がかかる。
- ・細かいニュアンスを伝えにくい。
- ・障害のある人との接し方が分からない。(脳性マヒ、脊損、ALS、失語症、盲ろう、視覚障害、聴覚障害、高次脳機能障害、自閉症、発達障害、知的障害、精神障害、認知症)
- ・どのように声を掛けていいか分からない。
- ・意思表示が明確でない(極端に少ない)方との関わり方。
- ・どこまで手をだしたらいいか分からない。
- ・フィッティング分からない。(入力部位の選定、適合)
- ・機器の使い方が分からない。(活用できない)
- ・キーパーソン(親、介助者)と本人の意見が違っている。

#### 4 . 障害者へのコミュニケーション支援で、どんなことを知りたいですか？

- ・障害のある人とのコミュニケーション方法。
- ・支援機器について。
- ・コミュニケーションに必要な福祉用具。
- ・使いやすいコミュニケーション機器。
- ・コミュニケーション支援機器の導入の仕方。指導方法。
- ・実際に自宅でどのように使いこなしているか。
- ・個的支援の現状と、ネットワーク等の社会資源。
- ・障害に関わらず、基本となる支援技術。
- ・障害特性に応じた支援技術。
- ・いろいろなコミュニケーション支援の事例。
- ・支援を必要として入る人のニーズ。
- ・障害特性にあった機器のフィッティングの方法。

#### 6 . 最後に、あなたにとってコミュニケーションとは？

- ・こころのつながり（ふれあい）
- ・手段を問わず、伝えて分かりあうこと。
- ・社会生活、自立生活をする上でとても大切なもの。
- ・人とのつながりを広げるための一手段。
- ・相手のことを知るために必要なもの。
- ・人間にとって最も必要なもの。
- ・お互いの気持ちや考えが通じ合うこと。（意思の疎通ができること）
- ・意欲の向上、低下に大きく影響のあるもの。
- ・何気ないやり取りから相手のニーズを読み取れるもの。
- ・人と人をつなぐツール。
- ・自己表現、他者理解。
- ・会話等で一緒に楽しい時を過ごすもの。
- ・信頼関係、人間関係を築く手段。
- ・光を届けるもの。
- ・お互い笑顔になれるもの。
- ・喜びを共感するもの。

# 北九州市障害児・者への



## コミュニケーション支援、IT支援を考える会（北九州市コミットの会）

○北九州市障害児・者へのコミュニケーション支援、IT支援を考える会（北九州市コミットの会）とは？

### COMmunication + IT = COMIT

北九州市障害児・者へのコミュニケーション支援、IT支援を考える会（北九州市コミットの会）は、北九州市内の障害のある人たちにコミュニケーション支援、IT支援を行うために必要なネットワーク作りを主な目的にして作られた団体です。

- ・パソコンを使うことが出来たら、コミュニケーションの幅が広がるのに・・・
- ・コミュニケーション支援機器を導入して、これから活用しようと思っても、周りの支援者にノウハウがないため継続的な支援が行えない・・・

そのような人たちに対して、包括的に支援を行っていくためのネットワークを作り、支援に必要な活動を行っていきます。

#### ○活動内容

- ①支援技術向上のための研修会、シンポジウム等の開催
- ②北九州市内におけるコミュニケーション支援、IT支援に関する情報の共有化
- ③関係機関、団体への事業の協力
- ④障害児・者関係者へのコミュニケーション支援、IT支援の啓発活動

#### ○会員になることによって

北九州コミットの会は活動を通して会員の皆様に下記のようなお手伝いをしていきます。

- ①メーリングリストを通して情報を流していきます。（イベント情報、社会資源情報、事例を通して検討した内容、Q&Aなど）
- ②支援機器紹介や作成会を通じて、実際に支援機器を体験したり、創作できる場を提供します。（個人に合わせた支援機器を探すためのお手伝いをします。）
- ③IT支援に関する研修会、ワークショップなどの企画、立案のお手伝いをします。
- ④定期的に技術向上のための研修会を開催し、スキルアップを図ります。

北九州市コミットの会に入会希望の方は、E-MAILで下記のアドレスまでお申込みください。  
北九州市障害児・者へのコミュニケーション支援、IT支援を考える会（北九州市コミットの会）  
E-MAIL：[comit.info@gmail.com](mailto:comit.info@gmail.com)

北九州市障害者社会参加推進センター

〒804-0067 北九州市戸畑区汐井町1-6 ウェルとばた6階  
電話 093-883-5554 FAX 093-883-5551

(上記センターの運営団体) 財団法人北九州市身体障害者福祉協会

〒804-0067 北九州市戸畑区汐井町1-6 ウェルとばた6階  
電話 093-883-5555 FAX 093-883-5551